

2015年度三重短期大学年報

三重短期大学評価委員会

目 次

三重短期大学年報刊行にあたって	1
2015年度三重短期大学の概況	2
1. 理念・目的・教育目標	
2. 組織	
1) 全学組織	
表1 設置学科・専攻等	5
2) 教員組織	
表2 全学の教員組織	6
表3 専任教員個別表	7
表4 専任教員年齢構成	11
3) 事務組織	
表5 事務組織	12
3. 教育	
1) 教育課程	
表6 学科の開設科目における専兼比率	13
表7 学科・専攻科の学生定員及び在籍学生数	15
2) 教育内容と効果	
表8 国家試験・資格試験合格率および卒業免許取得率	16
表9 卒業判定	17
表10 就職・進学状況	18
表11 学科毎の退学者・休学者数	19
4. 入試	
表12 学科の志願者・合格者・入学者数の推移	20
表13 学科の入学者の構成	22
5. 学生生活	
表14 学生相談室利用状況	23
表15 奨学金給付・貸与状況	24
表16 授業料免除状況	25
6. 研究	
表17 教員研究費	26
表18 科研費の採択状況	27

表19 教員研究室の状況	28
表20 専任教員の担当授業時間数	29

7. 社会活動

表21 公開講座の開設状況	30
---------------	----

8. 大学運営

1) 施設・設備

表22 校地・校舎、講義室・演習室等の面積	31
表23 学科・専攻科毎の講義室・演習室等の面積・規模	32

2) 図書館

表24 図書資料の所蔵数	33
表25 学生閲覧室等の面積・座席数	34
表26 図書館利用状況	35

3) 財務

表27 歳入・歳出決算表	36
--------------	----

4) 管理運営

表28 教授会開催状況	37
-------------	----

9. 専任教員の活動実績

39

三重短期大学は、これまで、2001年、2009年、2010年、2014年に自己点検評価報告書を作成し、2010年のものについては、大学評価・学位授与機構による認証評価を受け、適格の判定を与えられました。

本学では、全学的な自己点検評価は3ないし4年毎に実施することとしていますが、その基礎資料として、毎年、専任教員の研究教育業績調査を実施し、さらに自己点検評価実施に必要な定型的なデータを収集することとしています。

これらの基礎データについては、2011年度分から「三重短期大学年報」として取りまとめて、本学HP上に公開して、広く三重短期大学の状況について発信することとしました。

「三重短期大学年報」は、職階別の年齢構成・男女比などの教員データ、受験者数・合格者数などの入試データや、在籍学生数・卒業数・休退学数・進路状況などの学生データ、施設・設備・短大財政などの管理データ、それに専任教員の教育・研究・地域貢献活動の状況などから構成することとし、当該年度末の三重短期大学の状況を数値面から把握できるように、大項目毎に章立てして構成してあります。2011年度分の公表は12月になりましたが、2012年度分からは11月中に公開することになりました。

「三重短期大学年報」は基礎的データの掲載が主内容です。諸数値の基準日は2015年5月1日時点とし、そうでない場合は、注記によって示しています。それぞれについての詳細な自己評価は行わず、3年ないし4年毎に行われる自己点検評価のための資料とするものですが、全体的な概要を冒頭に記載してあります。ただし、あくまでも特徴的な変化を把握するもので、評価には踏み込んでおりません。

2011年度から2013年度までの「三重短期大学年報」のデータをもとに、2014年度に自己点検評価作業を行い、2015年3月に「三重短期大学自己点検・評価書」をとりまとめて公開しました。これは、前回の認証評価と次回の認証評価の間の中間的な自己点検評価書で、定期的な自己点検評価作業の一環です。

今後とも、継続的に短大情報を公開していく中で、自己点検評価に必要な外部からの意見・提言を寄せていただけるよう関係各方面にお願いします。

2016年11月

2015年度三重短期大学の概況

1. 本学の理念・目的・教育目標について

- ・理念・目的・教育目標については前年度を踏襲しているが、2014年度にディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを定めて、HP上に公開している。これによって、理念・目的・教育目標を具体化する形で、アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを体系的に整備することとなった。

2. 三重短期大学の組織について

- ・学科・専攻・コース構成については2007年度以降変化していない。
- ・専任教員は助教以上が法経科14名、生活科学科15名の計29名で、教員1名当たりの在籍学生数は平均23名である。
- ・教員の年齢構成は35歳以下が3名、45歳以下が11名、55歳以下が9名、65歳以下が6名であり、2014年度に比して、35才以下の若手教員の割合が低下している。
- ・教員の職階構成では教授15名、准教授12名、講師0名、助教2名となっている。
- ・事務職員は常勤職員が12名、非常勤職員等が11名となっており、職員数に増減はない。

3. 教育課程の状況

- ・両学科の開設授業科目のうち専門教育科目については、専任教員の担当比率が生活科学専攻では39%とやや低いが、その他の学科・専攻では51%～57%で、半数が専任教員によって担当されている。
- ・最近3年間の在籍学生数は法経科第2部を除いて、定員を充足しているが、法経科第2部については、在籍数が定員を充足していない状況が続いている。
- ・卒業判定の合格率に付いては、2014年度の85.2%から87.2%と若干上昇しており、また法経科第2部の合格率も67.1%から71.1%へと若干ながら改善している。
- ・留年率についてみると、2014年度に比して若干上昇している。法経科第2部では8.86から18.89と10.03ポイントの上昇を見ている。2014年度と比べ退学者数の減少により、留年率が上昇したことによっている。
- ・退学・休学状況に付いてみると、2014年度の退学者数は28名、休学者数は1名で、この3年間は増加傾向にあったが、2015年度は減少に転じた。全体の退学率は5.4%から4.1%への減少となっているが、生活科学科では退学率が2.4%から2.8%へとやや増加している。
- ・国家試験・資格試験の状況についてみると、栄養士資格取得者は2014年度の48名から43名へ若干の減少を示している。管理栄養士の合格者は14名で、前年・前々年と比べ同水準にとどまっている。
- ・教員免許取得者については中学社会科二種・中学家庭科二種・栄養教諭二種の合計で10名となっており、昨年度の7名からやや増加している。特に、栄養教諭二種免許取得者は1名から4名へと増加している。
- ・卒業後の進路状況についてみると、就職については、法経科第1部・生活科学科ともに前年度より若干の増加を示している。進学のうち他大学編入に関しては、生活科学科が前年21名に対し13名に減少した以外は、ほぼ前年水準であった。

4. 入試の状況

- ・過去5年間の定員充足率は法経科第2部を除けば、おおむね100%を越えている。法経科第2部については2012年度入試分の44%から2013年度入試分の54%へ若干回復していたが、2015年度分の45%へと再度減少したものの、2016年度分は57%へと過去5年間で最も充足率が高くなっている。
- ・生活科学専攻において2011年度入試から導入した関連分野特別選抜入試、社会人特別選抜入試については漸増傾向にあった。2015年度入試で一転減少したものの、2016年度では2014年度以前と同水準となっている。法経科第2部の社会人特別選抜入試は、2012年度入試以降の低い水準であったが、2016年度入試では前年の倍増をしている。
- ・入学定員に対する出願者の割合を見ると、2012年度から2014年度まで上昇を続けていたが、2015年度は一転前年の1.86倍から1.81倍へと減少したが、2016年度では1.88となり、2014年度と同水準となっている。
- ・入試種別の入学者構成を見ると一般入試が34.6%（前年度38.0%）、推薦入試が37.1%（36.7%）、センター利用入試が20.3%（20.7%）、社会人特別選抜が6.3%（4.0%）、関連分野特別選抜が1.7%（0.6%）となっており、社会人特別選抜及び関連分野特別選抜の入試の利用の割合が若干増加している。

5. 学生生活の状況

- ・学生相談室は年間22日開室され、非常勤の臨床心理士によるカウンセリングが行われているが、2015年度の相談件数は115件で、前年の91件と比べて増加を見ている。
- ・奨学金についてはいずれも貸与であるが、在籍学生684名の36.1%（前年38.7%）に当たる247名が受給しており、前年度より減少している。一人当たりの平均受給額は年間72.1万円である。
- ・授業料の減免については、各半期毎に認定されるが、2015年度前・後期合計で78件の希望に対して全額免除28件、半額免除36件、合計で64件の認定が行われた。2014年度に比べて2015年度は希望者数は増加したが、免除者数は減少している。

6. 専任教員の研究環境

- ・教員の研究費総額は1242万円であり、学内外を合わせた教員1人当たりの平均研究費は法経科で39万円、生活科学科で43.5万円であり、そのうち設置者の支出によって手当てされる分は、法経科が63%、生活科学科が45%である。法経科では科研費補助金などの学外研究費の受給額が漸減しており、これが平均研究費の水準を押し下げている。
- ・科研費については2015年度は1件申請して採択件数は0件であった。
- ・教員研究室は講師以上の専任教員には研究室が確保されているが、助教については研究室の確保がない。共同研究室も含めた研究室の平均面積は法経科で25.2㎡、生活科学科で25.5㎡である。
- ・助教を除く専任教員の担当授業時間数は、おおむね10.5授業時間が平均である。

7. 社会活動

- ・従来、本学が提供している公開講座としては地域連携講座・出前講義・オープンカレッジがある。2015年度には、2014年度より多い32講座が開講され、1,418名の受講者があった。開講数、参加者数ともに2014年度を大きく上回った。特に出前講座が開設数、参加者数とも大幅に増加した。また、1講座当たりの平均参加者数も2014年度の42名から49名へと増加した。

8. 大学運営

- ・校地・校舎・講義室・演習室などの教育施設の新增設については、2015年度中に大きな変更はなかったが、2つの小教室に固定式のプロジェクターが設置され、音響・映像環境の改善を見た。
- ・図書館の収蔵冊数は92,213冊で、2014年度中に2,048冊の増加があった。
- ・2015年度の利用者数は3,343名、貸出冊数は6,125冊で、学生の利用数は傾向的に減少している。
- ・2015年度の大学財政についてみると、歳入合計は5億5146万円で授業料・入学金等が2億7315万円、一般財源からの支出が2億5701万円となっている。歳出内訳では一般職給が4億3358万円、大学管理運営事業費8510万円、教育研究関係事業費1291万円、図書館管理運営事業1037万円が主なものである。
- ・教授会は定例・臨時を含めて20回開催され、大学運営上の諸課題の審議・決定に当たった。

9. 専任教員の活動状況

- ・専任教員の活動状況については、「三重短期大学教員研究・教育業績」として、各教員毎に研究活動・教育活動・社会的活動の状況を掲載した。

表 1 設置学科・専攻等

	学 科	専 攻・部	コース	専攻科
	法経科	第 1 部<昭和 4 4 年 4 月> 第 2 部<昭和 2 7 年 4 月>	法律コース<平成 1 9 年 4 月> 経商コース<平成 1 9 年 4 月>	
三重短期大学	生活科学科	食物栄養学専攻<昭和 4 4 年 4 月>		
		生活科学専攻<平成 3 年 4 月>	生活福祉・心理コース<平成 1 9 年 4 月> 居住環境コース<平成 1 9 年 4 月>	

表2 全学の教員組織（2015年度）

学科		専任教員数					助手	設置基準上 必要専任教員数	専任教員1人あ たりの在籍学生 数 (表7の在籍数/A)	兼任教員数					兼任 教員数
		教授	准教授	講師	助教	計(A)				教授	准教授	講師	助教	計	
法経科	第1部	9	5			14		3	26.29	6	1			7	41
	第2部							7							9
生活科学科	食物栄養学専攻	2	2		2	6	1	4	17.83						38
	生活科学専攻	4	5			9		4	23.22	3	2			5	64
合 計		15	12	0	2	29	1	18		9	3			12	152
短期大学全体の入学定員に 応じ定める専任教員数								5							

- 〔注〕 1 専任とは、常勤する者をいい、兼任とは、学外からの兼務者を示す。
 2 同一の兼任教員が複数の学科を担当する場合、重複して記載している。

表3 専任教員個別表（2015年度）
法経科

職名	ふ り が な 氏 名	性別	就職 年月日	現職就任 年月日	所属専 攻・ コース	授 業 科 目										最終学歴及び 学位称号
						毎週授業時間数										
						科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計			
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
教授	アメミヤ 雨宮 テルオ 照雄	男	1982/4/1	1989/4/1	法経科	財政学		4.0					0.0	4.0	明治大学大学院 政治経済学研究 科 経済学修士	
						財政学（法2）		4.0					0.0	4.0		
						自治体行政特論	2.0						2.0	0.0		
						地方財政論	2.0						2.0	0.0		
						地方財政論（法2）	2.0						2.0	0.0		
						経済入門	2.0						2.0	0.0		
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0		
計	8.0	8.0	2.0	2.0	0.0	0.0	10.0	10.0								
教授	タケゾエ 竹添 アツコ 敦子	女	1989/4/1	1995/4/1	法経科	文学Ⅰ		2.0					0.0	2.0	関西大学大学院 文学研究科 文学修士	
						文学Ⅰ（法2）		2.0					0.0	2.0		
						文学Ⅱ		2.0					0.0	2.0		
						文学Ⅱ（法2）		2.0					0.0	2.0		
						独語Ⅰ（法2）		2.0					0.0	2.0		
						比較文化論		2.0					0.0	2.0		
						比較文化論（法2）		2.0					0.0	2.0		
計	0.0	14.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.0								
教授	モギ 茂木 ヨウイチ 陽一	男	1987/4/1	1993/4/1	法経科	経済史	4.0						4.0	0.0	一橋大学大学院 社会学研究科 社会学修士	
						経済史（法2）	4.0						4.0	0.0		
						歴史学		2.0					0.0	2.0		
						歴史学（法2）		2.0					0.0	2.0		
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0		
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0		
						計	8.0	4.0	4.0	4.0	0.0	0.0	12.0	8.0		
教授	タテイシ 立石 ヨシオ 芳夫	男	1999/10/1	2009/4/1	法経科	行政学		4.0					0.0	4.0	立命館大学大学院 法学研究科 法学修士	
						行政学（法2）	4.0						4.0	0.0		
						地方政治論	4.0						4.0	0.0		
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0		
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0		
						計	8.0	4.0	4.0	4.0	0.0	0.0	12.0	8.0		
						教授	ムライ 村井 ミヨコ 美代子	女	2003/4/1	2011/4/1	法経科	英語Ⅰ	4.0	4.0		
英語Ⅰ（法2）	2.0	2.0											2.0	2.0		
英語講読	2.0	2.0											2.0	2.0		
英語講読（法2）	2.0	2.0											2.0	2.0		
キャリア形成セミナー	2.0												2.0	0.0		
計	12.0	10.0	0.0	0.0	0.0							0.0	12.0	10.0		
教授	クスモト 楠本 タカシ 孝	男	2004/4/1	2012/4/1	法経科							刑法	4.0			
						刑法（法2）	4.0						4.0	0.0		
						刑事政策		2.0					0.0	2.0		
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0		
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0		
						法学基礎演習				2.0			0.0	2.0		
						法学入門	0.2						0.2	0.0		
農林体験セミナー	2.0						2.0	0.0								
計	10.2	2.0	4.0	6.0	0.0	0.0	14.2	8.0								
教授	ミヤケ 三宅 ヌウイチロウ 裕一郎	男	2008/10/1	2013/10/1	法経科	日本国憲法（日本国憲法Ⅰ・Ⅱ）	2.0	2.0					2.0	2.0	専修大学大学院 法学研究科 法学博士	
						日本国憲法（法2）	4.0						4.0	0.0		
						比較憲法	2.0						2.0	0.0		
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0		
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0		
						法学基礎演習				2.0			0.0	2.0		
						法学入門	0.2						0.2	0.0		
計	8.2	2.0	4.0	6.0	0.0	0.0	12.2	8.0								
教授	イシハラ 石原 ヨウスケ 洋介	男	2006/4/1	2014/4/1	法経科	金融論		4.0					0.0	4.0	一橋大学大学院 経済学研究科 経済学修士	
						金融論（法2）	4.0						4.0	0.0		
						国際経済論	2.0						2.0	0.0		
						国際経済論（法2）		2.0					0.0	2.0		
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0		
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0		
						計	6.0	6.0	4.0	4.0	0.0	0.0	10.0	10.0		
教授	トミタ 富田 ジン 仁	男	2009/4/1	2014/4/1	法経科	財産法Ⅰ	4.0						4.0	0.0	成城大学大学院 法学研究科 法学修士	
						財産法Ⅰ（法2）	4.0						4.0	0.0		
						財産法Ⅱ		2.0					0.0	2.0		
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0		
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0		
						法学基礎演習				2.0			0.0	2.0		
						法学入門	0.2						0.2	0.0		
計	8.2	2.0	4.0	6.0	0.0	0.0	12.2	8.0								

准教授	ヤマカワ 山川 カズヨシ 和義	男	2007/10/1	2009/4/1	法経科	労働法		4.0					0.0	4.0	名古屋大学大学院 法学研究科 法学修士
						労働法（法2）		4.0					0.0	4.0	
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						社会保障法	2.0						2.0	0.0	
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						法学入門	0.2						0.2	0.0	
						法学基礎演習				2.0			0.0	2.0	
准教授	フジエダ 藤枝 リツコ 律子	女	2010/4/1	2010/4/1	法経科	計	2.2	8.0	4.0	6.0	0.0	0.0	6.2	14.0	名古屋大学大学院 法学研究科 法学修士
						行政法	4.0						4.0	0.0	
						行政法（法2）	4.0						4.0	0.0	
						地方自治法		2.0					0.0	2.0	
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						法学基礎演習				2.0			0.0	2.0	
准教授	スギヤマ 杉山 ナオシ 直	男	2013/4/1	2013/4/1	法経科	法学入門	0.2						0.2	0.0	中京大学大学院 商学研究科 経営学博士
						計	8.2	2.0	4.0	6.0	0.0	0.0	12.2	8.0	
						経営学	4.0						4.0	0.0	
						経営学（法2）	4.0						4.0	0.0	
						経営組織論		2.0					0.0	2.0	
						経営組織論（法2）		2.0					0.0	2.0	
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
准教授	タナカ 田中 サトミ 里美	女	2012/4/1	2015/4/1	法経科	社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0	明治大学大学院 商学研究科 商学博士
						計	8.0	4.0	4.0	4.0	0.0	0.0	12.0	8.0	
						会計学		4.0					0.0	4.0	
						会計学（法2）	4.0						4.0	0.0	
						税務会計論	2.0						2.0	0.0	
						経営特殊講義		2.0					0.0	2.0	
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
准教授	カナエ 金江 リョウ 亮	男	2015/4/1	2015/4/1	法経科	社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0	京都大学大学院 経済学研究科 経済学博士
						計	6.0	6.0	4.0	4.0	0.0	0.0	10.0	10.0	
						経済原論	4.0						4.0	0.0	
						経済原論（法2）	4.0						4.0	0.0	
						経済学史		2.0					0.0	2.0	
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
准教授	金江 亮	男	2015/4/1	2015/4/1	法経科	計	8.0	2.0	4.0	4.0	0.0	0.0	12.0	6.0	京都大学大学院 経済学研究科 経済学博士

生活科学科

職名	ふ り が な 氏 名	性別	就 職 年 月 日	現職就任年 月 日	所属専攻・コース	授 業 科 目										最終学歴及び学位称号
						毎週授業時間数										
						科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計			
前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期								
教授	トウフクジ イチロウ 東福寺 一郎	男	1982/4/1	1990/4/1	生活福祉・心理コース	発達と学習		2.0					0.00	2.00	慶応義塾大学大学院社会科学科文学修士	
						福祉心理基礎演習				2.0			0.00	2.00		
						福祉心理演習			2.0	2.0			2.00	2.00		
						心理学概論	2.0						2.00	0.00		
						教職実践演習（中学）				2.0			0.00	2.00		
						心理学基礎実験					4.0		4.00	0.00		
						教職実習Ⅰ・Ⅱ					4.0	2.0	4.00	2.00		
						事前事後の指導										
						栄養教育実習					1.0	1.0	1.00	1.00		
						事前事後の指導										
生活科学概論	0.1						0.10	0.00								
計	2.1	2.0	2.0	6.0	9.0	3.0	13.1	11.0								
教授	イトウ キミ子 伊藤 貴美子	女	2003/4/1	2008/4/1	食物栄養学専攻	食品学	2.0						2.0	0.0	京都大学大学院医学研究科医学博士	
						食品学実験					3.0		3.0	0.0		
						微生物学	2.0						2.0	0.0		
						特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0		
						生活科学概論	0.2						0.2	0.0		
						食品の機能		2.0					0.0	2.0		
						食品衛生学実験						3.0	0.0	3.0		
						食品衛生学		2.0					0.0	2.0		
						計	4.2	4.0	4.0	4.0	3.0	3.0	11.2	11.0		
教授	ミナミ アリサト 南 有哲	男	1999/4/1	2007/4/1	居住環境コース	環境論	2.0						2.0	0.0	京都大学大学院経済学研究科経済学修士	
						居住環境特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0		
						環境政策論		2.0					0.0	2.0		
						環境政策論（法2）		2.0					0.0	2.0		
						環境倫理学		2.0					0.0	2.0		
						環境共生論	2.0						2.0	0.0		
						生活経営	2.0						2.0	0.0		
						生活科学概論	0.1						0.1	0.0		
						環境論（法2）	2.0						2.0	0.0		
計	8.1	6.0	4.0	4.0	0.0	0.0	12.1	10.0								
教授	ナガトモ マサタル 長友 薫輝	男	2004/4/1	2013/4/1	生活福祉・心理コース	社会福祉論・社会福祉論Ⅰ	2.0						2.0	0.0	龍谷大学大学院社会学研究科社会福祉学修士	
						社会保障論・社会保障論Ⅰ	2.0						2.0	0.0		
						福祉心理演習			4.0				4.0	0.0		
						社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ					2.0		2.0	0.0		
						生活科学概論	0.1						0.1	0.0		
計	4.1	0.0	4.0	0.0	2.0	0.0	10.1	0.0								
教授	キノシタ セイイチ 木下 誠一	男	2009/4/1	2015/4/1	居住環境コース	居住福祉論		2.0					0.0	2.0	三重大大学大学院工学研究科工学博士	
						居住計画論	2.0						2.0	0.0		
						住生活論		2.0					0.0	2.0		
						住生活設計Ⅰ						4.0	0.0	4.0		
						住生活設計Ⅱ					4.0		4.0	0.0		
						居住環境特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0		
						生活科学概論	0.1						0.1	0.0		
計	2.1	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	10.1	12.0								
教授	ヤマダ リヒロ 山田 徳弘	男	2015/4/1	2015/4/1	食物栄養学専攻	生化学	2.0						2.0	0.0	東京農業大学大学院農学研究科生物環境調整学博士	
						生化学実験					3.0		3.0	0.0		
						ライフステージ栄養学	2.0						2.0	0.0		
						特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0		
						生活科学概論	0.1						0.1	0.0		
						食生活論		2.0					0.0	2.0		
						栄養学		2.0					0.0	2.0		
						栄養学実験						3.0	0.0	3.0		
計	4.1	4.0	4.0	4.0	3.0	3.0	11.1	11.0								
准教授	アベ チサト 阿部 稚里	女	2006/4/1	2008/4/1	食物栄養学専攻	栄養教育論Ⅰ	1.0						1.0	0.0	椋山女学園大学大学院生活科学研究科人間生活科学博士	
						栄養教育論実習Ⅰ						1.5		1.5		0.0
						栄養教育実習						1.0	1.0	1.00		1.00
						事前事後の指導										
						給食計画実務論実習Ⅱ					1.0	1.0	0.0	0.0		
						校外実習事前事後指導										
						生活科学概論	0.1						0.1	0.0		
						教職実践演習（栄養）				2.0			0.0	2.0		
						特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0		
						栄養教育論Ⅱ		2.0					0.0	2.0		
						栄養教育論実習Ⅱ						1.5	0.0	1.5		
						給食運営総合指導		1.0					0.0	1.0		
						計	1.1	3.0	4.0	6.0	3.5	3.5	7.6	11.5		

准教授	キタムラ 北村 カオリ 香織	女	2007/4/1	2010/4/1	生活福祉・心理コース	社会福祉援助技術演習Ⅰ				4.0			0.0	4.0	龍谷大学大学院 社会学研究科 社会福祉学修士
						社会福祉援助技術現場実習Ⅰ					1.5		0.0	1.5	
						社会福祉発達史	2.0						2.0	0.0	
						障害者福祉論	2.0						2.0	0.0	
						福祉心理基礎演習				2.0			0.0	2.0	
						福祉心理演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ		3.0					0.0	3.0	
						生活科学概論	0.1						0.1	0.0	
						社会福祉援助技術現場実習Ⅱ					1.5		1.5	0.0	
准教授	セダウ 清道 アツコ 亜津子	女	2013/10/1	2013/10/1	生活福祉・心理コース	計	4.1	3.0	2.0	8.0	1.5	1.5	7.6	12.5	病休中 名古屋大学大学院 教育発達化学研究科 教育学博士
						教育の基礎理論							0.0	0.0	
						教育の基礎理論（法２）							0.0	0.0	
						栄養教育実習							0.00	0.00	
						事前事後の指導							0.00	0.00	
						教育実習Ⅰ・Ⅱ							0.00	0.00	
						事前事後の指導							0.00	0.00	
						福祉心理演習							0.0	0.0	
						福祉心理基礎演習							0.0	0.0	
						教職実践演習（栄養）							0.0	0.0	
						教職実践演習（中学）							0.0	0.0	
准教授	タケダ ノブカズ 武田 誠一	男	2013/10/1	2013/10/1	生活福祉・心理コース	道徳教育の研究							0.0	0.0	九州保健福祉大学大学院 社会学研究科 社会福祉学修士
						保育学（実習を含む）							0.0	0.0	
						生活科学概論							0.0	0.0	
						計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
						保険医療制度論	2.0						2.0	0.0	
						社会福祉援助技術論Ⅰ		4.0					0.0	4.0	
						相談援助の基盤と専門職論	4.0						4.0	0.0	
						社会保障論Ⅱ	2.0						2.0	0.0	
						福祉心理基礎演習				2.0			0.0	2.0	
准教授	オノダラ カズシゲ 小野寺 一成	男	2014/4/1	2014/4/1	居住環境コース	福祉心理演習			2.0	2.0			2.0	2.0	東洋大学大学院 工学研究科 国際地域学博士
						社会福祉援助技術現場実習Ⅰ					1.5		0.0	1.5	
						社会福祉援助技術現場実習Ⅱ					1.5		1.5	0.0	
						生活科学概論	0.1						0.1	0.0	
						計	8.1	4.0	2.0	4.0	1.5	1.5	11.6	9.5	
						都市計画論		2.0					0.0	2.0	
						地域政策論	2.0						2.0	0.0	
						地域政策論（法２）	2.0						2.0	0.0	
						住環境計画	2.0						2.0	0.0	
准教授	コマダ アイ 駒田 亜衣	女	2014/4/1	2014/4/1	食物栄養学専攻	地域環境学		2.0					0.0	2.0	青森県立保健大学大学院健康科学研究科 健康科学博士 医学博士
						居住環境特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0	
						まちづくり設計Ⅰ					2.0		2.0	0.0	
						まちづくり設計Ⅱ						2.0	0.0	2.0	
						生活科学概論	0.1						0.1	0.0	
						計	6.1	4.0	4.0	4.0	2.0	2.0	12.1	10.0	
						給食計画実務論		2.0					0.0	2.0	
						調理学	2.0						2.0	0.0	
						給食計画実務論実習Ⅰ					3.0		3.0	0.0	
准教授	リュウ コウイチロウ 笠 浩一朗	男	2015/4/1	2015/4/1	居住環境コース	給食計画実務論実習Ⅱ					1.0	1.0	1.0	1.0	名古屋大学大学院情報科学研究科 情報科学博士
						校外実習事前事後指導							3.0	0.0	
						調理学実習Ⅱ（調理学実習Ⅰ）							3.0	0.0	
						特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0	
						給食運営総合指導		1.0					0.0	1.0	
						生活科学概論	0.1						0.1	0.0	
						計	2.1	3.0	4.0	4.0	4.0	4.0	10.1	11.0	
						情報と社会	2.0	2.0					2.0	2.0	
						情報と科学		2.0					0.0	2.0	
助教	イイダ ツキミ 飯田 津喜美	女	1990/4/1	2008/4/1	食物栄養学専攻	情報処理実習Ⅰ					2.0	2.0	2.0	2.0	三重短期大学家政科食物栄養学専攻
						情報処理実習Ⅰ（法２）					2.0	0.0	2.0	0.0	
						生活科学概論	0.1						0.1	0.0	
						居住環境特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0	
助教	ヨネダ タケシ 米田 武志	男	2014/10/1	2014/10/1	食物栄養学専攻	計	2.1	4.0	4.0	4.0	4.0	2.0	10.1	10.0	京都大学大学院農学研究科 農学博士
						生活科学概論	0.1						0.1	0.0	
						特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0	
						計	0.1	0.0	4.0	4.0	0.0	0.0	4.1	4.0	

【注】 1 1 授業科目を複数の教員で担当する場合、当該授業時間数を担当者数で割り毎週授業時間数を算出した

表4 専任教員年齢構成（2015年度）

学科・専攻科	職位	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
法経科	教 授	2 28.6%	0.0%	1 14.3%	1 14.3%	3 42.9%	0.0%	0.0%	0.0%	7 100.0%
	准教授	0.0%	1 20.0%	1 20.0%	0.0%	0.0%	2 40.0%	1 20.0%	0.0%	5 100.0%
	講 師	%	%	%	%	%	%	%	%	0 %
	助 教	%	%	%	%	%	%	%	%	0 %
合 計		2 16.7%	1 8.3%	2 16.7%	1 8.3%	3 25.0%	2 16.7%	1 8.3%	0 0.0%	12 100.0%
定年 65 歳										

学科・専攻科	職位	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
生活科学科	教 授	2 33.3%	0.0%	0.0%	3 50.0%	0.0%	1 16.7%	0.0%	0.0%	6 100.0%
	准教授	0.0%	0.0%	1 20.0%	0.0%	0.0%	4 80.0%	0.0%	0.0%	5 100.0%
	講 師	%	%	%	%	%	%	%	%	0 0.0%
	助 教	0.0%	0.0%	0.0%	1 50.0%	0.0%	0.0%	1 50.0%	0.0%	2 100.0%
合 計		2 15.4%	0.0%	1 7.7%	4 30.8%	0.0%	5 38.5%	1 7.7%	0 0.0%	13 100.0%
定年 65 歳										

学科・専攻科	職位	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
教養教育担当	教 授	1 50.0%	0.0%	1 50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2 100.0%
	准教授	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1 50.0%	0.0%	1 50.0%	0.0%	2 100.0%
	講 師	%	%	%	%	%	%	%	%	0 0.0%
	助 教	%	%	%	%	%	%	%	%	0 %
合 計		1 25.0%	0.0%	1 25.0%	0.0%	1 25.0%	0.0%	1 25.0%	0 0.0%	4 100.0%
定年 65 歳										

	職位	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
全学科・専攻科	教 授	5 33.3%	0.0%	2 13.3%	4 26.7%	3 20.0%	1 6.7%	0 0.0%	0 0.0%	15 100.0%
	准教授	0 0.0%	1 8.3%	2 16.7%	0.0%	1 8.3%	6 50.0%	2 16.7%	0 0.0%	12 100.0%
	講 師	0 %	0 %	0 %	0 %	0 %	0 %	0 %	0 %	0 0.0%
	助 教	0 %	0 %	0 %	1 50.0%	0 %	0 %	1 50.0%	0 %	2 100.0%
合 計		5 17.2%	1 3.4%	4 13.8%	5 17.2%	4 13.8%	7 24.1%	3 10.3%	0 0.0%	29 100.0%
定年 65 歳										

表5 事務組織（2015年度）

短期大学業務系	部署名	専任職員	うち管理職	常勤嘱託職員	兼務職員	派遣職員	その他	計
	短期大学事務局	1	1					1
	学生部	6	1(1)		2			8
	総務課	4	2		7		1	13
	図書館	3	1(1)		2			5
	合計	14	5(2)	0	11	0	1	27

〔注〕1 （ ）内数字は、教員が管理職を担当している数を示す。

表6 学科の開設授業科目における専兼比率

〔2013年度〕

学 科				必修科目	選択必修科目	全開設授業科目
法経科	第1部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1	36	37
			兼任担当科目数 (B)	0	36	36
			専兼比率 % (A / (A + B) * 100)	100.00	50.00	50.68
		教養教育	専任担当科目数 (A)	0.33	14.33	14.66
			兼任担当科目数 (B)	3.66	17.66	21.32
			専兼比率 % (A / (A + B) * 100)	8.27	44.80	40.74
	第2部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1	20	21
			兼任担当科目数 (B)	0	16	16
			専兼比率 % (A / (A + B) * 100)	100.00	55.56	56.76
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.5	11.5	13
			兼任担当科目数 (B)	2.5	18.5	21
			専兼比率 % (A / (A + B) * 100)	37.50	38.33	38.24
生活科学科	食物栄養学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	10	26	36
			兼任担当科目数 (B)	10	21	31
			専兼比率 % (A / (A + B) * 100)	50.00	55.32	53.73
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.33	14.33	15.66
			兼任担当科目数 (B)	3.66	17.66	21.32
			専兼比率 % (A / (A + B) * 100)	26.65	44.80	42.35
	生活科学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	2	40.5	42.5
			兼任担当科目数 (B)	0	61.5	61.5
			専兼比率 % (A / (A + B) * 100)	100.00	39.71	40.87
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.33	14.33	15.66
			兼任担当科目数 (B)	3.66	17.66	21.32
			専兼比率 % (A / (A + B) * 100)	26.65	44.80	42.35

〔2014年度〕

学 科				必修科目	選択必修科目	全開設授業科目
法経科	第1部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1	31	32
			兼任担当科目数 (B)	0	32	32
			専兼比率 % (A / (A + B) * 100)	100.00	49.21	50.00
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.33	13.83	15.16
			兼任担当科目数 (B)	4.66	18.16	22.82
			専兼比率 % (A / (A + B) * 100)	22.20	43.23	39.92
	第2部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1	20	21
			兼任担当科目数 (B)	0	16	16
			専兼比率 % (A / (A + B) * 100)	100.00	55.56	56.76
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.5	12.83	14.33
			兼任担当科目数 (B)	2.5	19.16	21.66
			専兼比率 % (A / (A + B) * 100)	37.50	40.11	39.82
食物栄養学 専攻		専門教育	専任担当科目数 (A)	8.5	18.5	27
			兼任担当科目数 (B)	11.5	19.5	31
			専兼比率 % (A / (A + B) * 100)	42.50	48.68	46.55
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.33	18.5	19.83
			兼任担当科目数 (B)	3.66	19.5	21.32

生活科学科	生活科学 専攻	専門教育	専兼比率 % (A / (A + B) *100)	26.65	48.68	48.19
			専任担当科目数 (A)	2	30.5	32.5
			兼任担当科目数 (B)	0	51.5	51.5
			専兼比率 % (A / (A + B) *100)	100.00	37.20	38.69
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.33	13.83	15.16
			兼任担当科目数 (B)	3.66	18.16	21.82
			専兼比率 % (A / (A + B) *100)	26.65	43.23	41.00

〔2015年度〕

学 科				必修科目	選択必修科目	全開設授業科目
法経科	第1部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1	30	31
			兼任担当科目数 (B)	0	23	23
			専兼比率 % (A / (A + B) *100)	100.00	56.60	57.41
		教養教育	専任担当科目数 (A)	2.33	12.5	14.83
			兼任担当科目数 (B)	3.66	19.5	22.32
			専兼比率 % (A / (A + B) *100)	38.90	39.06	39.92
	第2部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1	19	20
			兼任担当科目数 (B)	0	17	17
			専兼比率 % (A / (A + B) *100)	100.00	52.78	54.05
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1	13	14
			兼任担当科目数 (B)	3	19	22
			専兼比率 % (A / (A + B) *100)	25.00	45.68	38.89
生活科学科	食物栄養学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	8	21	29
			兼任担当科目数 (B)	12	16	28
			専兼比率 % (A / (A + B) *100)	40.00	56.76	50.88
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.33	12.5	13.83
			兼任担当科目数 (B)	3.66	19.5	21.32
			専兼比率 % (A / (A + B) *100)	26.65	39.06	39.35
	生活科学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	2	30	32
			兼任担当科目数 (B)	0	50	50
			専兼比率 % (A / (A + B) *100)	100.00	37.50	39.02
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.33	12.5	13.83
			兼任担当科目数 (B)	3.66	19.5	23.16
			専兼比率 % (A / (A + B) *100)	26.65	39.06	37.39

〔注〕 1 「全開設授業科目」とは、必須科目と選択必須科目をあわせたものである。

2 専任担当科目数には、他学科の専任教員による兼担科目も含む。

表7 学科の学生定員及び在籍学生数

〔2013年度〕

【2015年度】

学科・ 専攻科	専 攻	入 定 学 員	収 容 定 員 (A)	在籍学生 総数 (B)	B / A	在 籍 学 生 数				備 考
						1 年次	2 年次			
						学生数	学生数 (C)	留年者数 (内数) (D)	留年率 D / C (%)	
法経科	第 1 部	100	200	210	1.05	104	106	6	5.66	
	第 2 部	150	300	159	0.53	81	78	17	21.80	
計		250	500	369	0.74	185	184	23	12.50	
生活科学科	食物栄養学専攻	50	100	109	1.09	54	55	7	12.73	
	生活科学専攻	100	200	212	1.06	106	106	6	5.66	
計		150	300	321	1.07	160	161	13	8.08	
合 計		400	800	690	0.86	345	345	36	10.44	

2013年5月1日現在

〔2014年度〕

【2014年度】

学科・ 専攻科	専 攻	入 定 学 員	収 容 定 員 (A)	在籍学生 総数 (B)	B / A	在 籍 学 生 数				備 考
						1 年次	2 年次			
						学生数	学生数 (C)	留年者数 (内数) (D)	留年率 D / C (%)	
法経科	第 1 部	100	200	216	1.08	106	110	9	8.18	
	第 2 部	150	300	158	0.53	79	79	7	8.86	
計		250	500	374	0.75	185	189	16	8.47	
生活科学科	食物栄養学専攻	50	100	107	1.07	49	58	5	8.62	
	生活科学専攻	100	200	221	1.11	110	111	8	7.21	
計		150	300	328	1.09	159	169	13	7.69	
合 計		400	800	702	0.88	344	358	29	8.10	

2014年5月1日現在

〔2015年度〕

【2019年度】

学科・ 専攻科	専 攻	入 定 学 員	収 容 定 員 (A)	在籍学生 総数 (B)	B / A	在 籍 学 生 数				備 考
						1 年次	2 年次			
						学生数	学生数 (C)	留年者数 (内数) (D)	留年率 D / C (%)	
法経科	第 1 部	100	200	210	1.06	104	106	7	6.60	
	第 2 部	150	300	158	0.54	68	90	17	18.89	
計		250	500	368	0.75	172	196	24	12.25	
生活科学科	食物栄養学専攻	50	100	107	1.08	54	53	4	7.55	
	生活科学専攻	100	200	209	1.10	98	111	4	3.60	
計		150	300	316	1.09	152	164	12	7.32	
合 計		400	800	684	0.88	324	360	36	10.00	

2015年5月1日現在

〔注〕 1 2 年次学生数のうち、留年者数は、前年度の卒業判定不合格者から退学者等を引いた数。

表 8 国家試験・資格試験合格率および附卒業免許取得率

〔2013年度〕

学科・専攻科	国家試験・資格試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B) (取得者数)	合格率 (%) B/A*100
	【国家試験・資格試験】			
生活科学科食物栄養学専攻	管理栄養士	47	12	25.5
生活科学科生活科学専攻	2級建築士			
	社会福祉士	10	1	10.0
	【卒業免許】			
法経科第1部	中学校教諭（社会科）二種免許	2	2	100.0
生活科学科食物栄養学専攻	栄養士免許	50	44	88.0
生活科学科食物栄養学専攻	栄養教諭二種免許	8	8	100.0
生活科学科生活科学専攻	中学校教諭（家庭科）二種免許	6	6	100.0

〔2014年度〕

学科・専攻科	国家試験・資格試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B) (取得者数)	合格率 (%) B/A*100
	【国家試験・資格試験】			
生活科学科食物栄養学専攻	管理栄養士	44	14	31.8
生活科学科生活科学専攻	2級建築士			
	社会福祉士	14	2	14.3
	【卒業免許】			
法経科第1部	中学校教諭（社会科）二種免許	3	3	100.0
生活科学科食物栄養学専攻	栄養士免許	54	48	88.0
生活科学科食物栄養学専攻	栄養教諭二種免許	1	1	100.0
生活科学科生活科学専攻	中学校教諭（家庭科）二種免許	3	3	100.0

〔2015年度〕

学科・専攻科	国家試験・資格試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B) (取得者数)	合格率 (%) B/A*100
	【国家試験・資格試験】			
生活科学科食物栄養学専攻	管理栄養士			
生活科学科生活科学専攻	2級建築士			
	社会福祉士		3	
	【卒業免許】			
法経科第1部	中学校教諭（社会科）二種免許	3	3	100.0
生活科学科食物栄養学専攻	栄養士免許	51	43	84.3
生活科学科食物栄養学専攻	栄養教諭二種免許	4	4	100.0
生活科学科生活科学専攻	中学校教諭（家庭科）二種免許	3	3	100.0

〔注〕 1 受験者数、合格者数が把握できない場合は、空欄とした。

表 9 卒業判定

学 科		2013年度			2014年度			2015年度		
		卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率 (%) B/A *100	卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率 (%) B/A *100	卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率 (%) B/A *100
法経科	第 1 部	106	93	87.7	110	96	87.3	106	94	88.7
	第 2 部	78	62	79.5	79	53	67.1	90	64	71.1
計		184	155	84.2	189	149	78.8	196	158	80.6
生活科学科	食物栄養学専攻	55	50	90.9	58	54	93.1	53	51	96.2
	生活科学専攻	106	95	89.6	111	102	91.9	111	105	94.6
計		161	145	90.1	169	156	92.3	164	156	95.1
合計		345	300	87.0	358	305	85.2	360	314	87.2

卒業予定者数は、各年度とも5月1日現在

表10 就職・進学状況

学 科	専攻・部	進 路		2013年度	2014年度	2015年度
法経科	第 1 部	就職	民間企業	53	51	55
			官公庁	5	7	8
			上記以外	0	0	0
		進学	他大学編入	20	23	21
			上記以外	1	0	2
			そ の 他	13	14	5
		合 計	92	95	91	
	第 2 部	就職	民間企業	20	15	18
			官公庁	3	2	3
			上記以外	0	0	0
		進学	他大学編入	8	15	15
			上記以外	1	0	2
			そ の 他	27	21	20
合 計		59	53	58		
法経科 計		151	148	149		
生活科学科	食物栄養学 専攻	就職	民間企業	35	42	45
			官公庁	1	0	2
			上記以外	0	0	0
			(A)	(34)	(25)	(29)
		進学	他大学編入	4	7	3
			上記以外	2	2	0
		そ の 他	6	3	0	
		合 計	48	54	50	
	生活科学 専攻	就職	民間企業	65	73	72
			官公庁	3	1	5
			上記以外	0	0	0
		進学	他大学編入	11	14	10
			上記以外	3	3	6
		そ の 他	10	8	12	
		合 計	92	99	105	
	生活科学科 計		140	153	155	

〔注〕 1 「その他」は、当該学科の各年度の卒業者（9月卒業を含む）のうち就職・進学のいずれもしないものの人数を示す。

「(A)」は、教職や栄養士等の有資格者として職業に就いた卒業生数を示す。

表11 学科の退学者・休学者数

【退学者】

学 科	専 攻	2013年度				2014年度				2015年度			
		1 年次	2 年次	合計	退学率 (%)	1 年次	2 年次	合計	退学率 (%)	1 年次	2 年次	合計	退学率 (%)
法経科	第 1 部	5	3 (2)	8	3.8	6	7 (4)	13	6.0	0	7 (3)	7	3.3
	第 2 部	7	10 (7)	17	10.7	8	9 (2)	17	10.8	4	8 (3)	12	7.6
計		12	13 (9)	25	6.8	14	16 (6)	30	8.0	4	15 (6)	19	5.2
生活科学科	食物栄養学専攻	1	1 (0)	2	1.8	0	0 (0)	0	0.0	2	0 (0)	2	1.9
	生活科学専攻	3	3 (0)	6	2.8	3	5 (2)	8	3.6	5	2 (1)	7	3.3
計		4	4 (0)	8	2.5	3	5 (2)	8	2.4	7	2 (1)	9	2.8
合 計		16	17 (9)	33	4.8	17	21 (8)	38	5.4	11	17 (7)	28	4.1

【休学者】

学 科	専 攻	2013年度			2014年度			2015年度		
		1 年次	2 年次	合計	1 年次	2 年次	合計	1 年次	2 年次	合計
法経科	第 1 部	2	2 (2)	4	1	2 (1)	3	0	0 (0)	0
	第 2 部	1	0	1	4	1 (0)	5	0	0 (0)	0
計		3	2 (2)	5	5	3 (1)	8	0	0 (0)	0
生活科学科	食物栄養学専攻	0	0	0	0	0	0	0	0 (0)	0
	生活科学専攻	3	5 (2)	8	0	4 (1)	4	0	1 (1)	1
計		3	5 (2)	8	0	4 (1)	4	0	1 (1)	1
合 計		6	7 (4)	13	5	7 (2)	12	0	1 (1)	1

- [注] 1. () 内の数字は3年次以上生の学生数を内数で示したもの。
 2. 退学率については、各年度の5月1日現在の学生数に占める割合とする。
 3. 休学者数は延べ人数で示した。

表12 学科の志願者・合格者・入学者数の推移

		入試の種類		2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	過去5年 間におけるA/B の平均
法 経 科	第 1 部	推薦入試	志願者	57	45	61	71	73	
			合格者	50	41	50	50	53	
			入学者	50	41	50	50	51	
			入学定員	50	50	50	50	50	
		一般入試	志願者	115	118	130	122	99	
			合格者	64	73	71	67	69	
			入学者	39	37	43	43	45	
			入学定員	40	40	40	40	40	
		センター利用入試	志願者	63	86	90	49	48	
			合格者	26	56	34	25	24	
			入学者	11	27	13	11	6	
			入学定員	10	10	10	10	10	
		第1部 計	志願者	235	249	281	242	220	103.4%
			合格者	140	170	155	142	146	
			入学者(A)	100	105	106	104	102	
			入学定員(B)	100	100	100	100	100	
			A/B	1.00	1.05	1.06	1.04	1.02	
	第 2 部	推薦入試	志願者	21	21	17	24	25	
			合格者	19	20	15	20	23	
			入学者	10	14	13	14	16	
			入学定員	30	30	30	30	30	
		一般入試	志願者	25	34	39	24	23	
			合格者	20	29	32	20	19	
			入学者	20	27	29	18	19	
			入学定員	40	40	40	40	40	
		センター利用入試	志願者	41	55	62	45	49	
			合格者	40	50	58	43	46	
			入学者	26	30	26	25	31	
			入学定員	50	50	50	50	50	
		社会人特別選抜	志願者	12	12	12	13	23	
			合格者	11	12	12	11	21	
			入学者	10	10	12	11	20	
			入学定員	30	30	30	30	30	
		第2部 計	志願者	99	122	130	106	120	50.8%
			合格者	90	111	117	94	109	
			入学者(A)	66	81	80	68	86	
			入学定員(B)	150	150	150	150	150	
			A/B	0.44	0.54	0.53	0.45	0.57	
	学科 合計		志願者	334	371	411	348	340	71.8%
			合格者	230	281	272	236	255	
			入学者(A)	166	186	186	172	188	
			入学定員(B)	250	250	250	250	250	
			A/B	0.66	0.74	0.74	0.69	0.75	

[注] 1 各入学定員が若干名の場合は「0」とした。

		入試の種類		2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	過去5年 間におけるA／B の平均	
生 活 科 学 科	食 物 栄 養 学 専 攻	推薦入試	志願者	43	33	37	42	52		
			合格者	21	22	20	21	21		
			入学者	21	22	20	21	21		
			入学定員	20	20	20	20	20		
		一般入試	志願者	83	65	70	79	81		
			合格者	45	43	45	49	42		
			入学者	28	30	27	31	27		
			入学定員	25	25	25	25	25		
		センター利用入試	志願者	14	16	18	18	11		
			合格者	12	5	12	10	7		
			入学者	2	2	2	2	3		
			入学定員	5	5	5	5	5		
		専攻計	志願者	140	114	125	139	144		103.6%
			合格者	78	70	77	80	70		
			入学者（A）	51	54	49	54	51		
			入学定員（B）	50	50	50	50	50		
			A／B	1.02	1.08	0.98	1.08	1.02		
	生 活 科 学 専 攻	推薦入試	志願者	43	35	37	34	44		
			合格者	41	33	37	34	42		
			入学者	41	33	37	34	42		
			入学定員	45	45	45	45	45		
		一般入試	志願者	60	73	68	56	72		
			合格者	54	67	60	53	54		
			入学者	32	39	42	31	30		
			入学定員	35	35	35	30	30		
		センター利用入試	志願者	80	75	92	62	125		
			合格者	50	55	51	60	54		
			入学者	24	26	20	29	31		
			入学定員	15	15	15	20	20		
		関連分野特別選抜	志願者	5	9	7	2	6		
			合格者	5	7	7	2	6		
			入学者	5	7	7	2	6		
			入学定員	5	5	5	5	5		
		社会人特別選抜	志願者	2	2	4	2	3		
			合格者	2	2	4	2	2		
			入学者	1	1	4	2	2		
			入学定員	0	0	0	0	0		
		専攻計	志願者	190	194	208	156	250		105.6%
			合格者	152	164	159	151	158		
			入学者（A）	103	106	110	98	111		
			入学定員（B）	100	100	100	100	100		
			A／B	1.03	1.06	1.10	0.98	1.11		
	学科 合計	志願者	330	308	333	295	394	104.9%		
		合格者	230	234	236	231	228			
		入学者（A）	154	160	159	152	162			
		入学定員（B）	150	150	150	150	150			
		A／B	1.03	1.07	1.06	1.01	1.08			
短 期 大 学 合 計	志願者	664	679	744	643	734	84.3%			
	合格者	460	515	508	467	483				
	入学者（A）	320	346	345	324	350				
	入学定員（B）	400	400	400	400	400				
	A／B	0.80	0.87	0.86	0.81	0.88				

〔注〕2 各入学定員が若干名の場合は「0」とした。

表13 学科の入学者の構成（2016年度）

学 科	専 攻		入 学 者 数					備 考	
			一般入試	推薦入試	センター 利用入試	社会人特別選抜	関連分野 特別選抜		計
法経科	第 1 部	入学定員	40	50	10			100	
		入学者数	45	51	6			102	
		計に対する割合	44.1%	50.0%	5.9%	%	%	100.0%	
	第 2 部	入学定員	40	30	50	30		150	
		入学者数	19	16	31	20		86	
		計に対する割合	22.1%	18.6%	36.0%	16.1%	%	100.0%	
生活科学科	食物栄養学専攻	入学定員	25	20	5			50	
		入学者数	27	21	3			51	
		計に対する割合	52.9%	41.2%	5.9%	%	%	100.0%	
	生活科学専攻	入学定員	30	45	20	0	5	100	
		入学者数	30	42	31	2	6	111	
		計に対する割合	27.0%	37.8%	27.9%	1.8%	5.4%	100.0%	
	計	入学定員	55	65	25	0	5	150	
		入学者数	57	63	34	2	6	162	
		計に対する割合	35.2%	38.9%	21.0%	1.2%	3.7%	100.0%	
合 計	入学定員	135	145	85	30	5	400		
	入学者数	121	130	71	22	6	350		
	計に対する割合	34.6%	37.1%	20.3%	6.3%	1.7%	100.0%		

2016年4月5日現在

〔注〕 1 各入学定員が若干名の場合は「0」とした。また、当該入試制度を導入していない場合は、空欄とした。

表14 学生相談室利用状況

施設の名称	専任 スタッフ 数	非常勤 スタッフ 数	週当たり 開室日数	年間 開室日数	開室時間	年間相談件数			備 考
						2013年度	2014年度	2015年度	
学生相談室	0	1	0.5	22	10 : 00 ～ 17:00	104	91	115	臨床心理士

表15 奨学金給付・貸与状況（2015年度）

（単位：千円）

（単位：円）

奨学金の名称	給付・貸与 の別	支給対象 学生数 （A）	在籍学生 総数 （B）	在籍学生数に 対する比率 A／B*100	支給総額 （C）	1 件あたり支給額 C／A
日本学生支援機構奨学金	貸与	243	684	35. 5%	175, 654	723
島根県育英会	貸与	1		0. 1%	1, 000	1, 000
岐阜県選奨生奨学金	貸与	1		0. 1%	192	192
あしなが奨学金	貸与	1		0. 1%	600	600
南都育英会	貸与	1		0. 1%	300	300
	給与				264	264
計		247	684	36. 1%	178, 010	721

表16 授業料免除状況

(人)

年度		2013年度		2014年度		2015年度	
学期		前期	後期	前期	後期	前期	後期
希望者		24	46	25	48	27	51
全額免除	総数	12	20	11	13	7	21
	法経科第1部	2	2	5	6	2	6
	法経科第2部	6	6	2	4	1	5
	生活科学科	4	12	4	3	4	10
	1年次	0	7	0	6	0	10
	2年次	12	13	11	7	7	11
半額免除	総数	10	21	12	31	16	20
	法経科第1部	2	5	4	10	7	6
	法経科第2部	0	2	1	4	4	4
	生活科学科	8	14	7	17	5	10
	1年次	0	9	0	12	0	9
	2年次	10	12	12	19	16	11
不採用		2	5	2	4	4	10

表17 教員研究費

学科・専攻科等	研究費の内訳		2013年度			2014年度			2015年度				
			研究費 (円)	研究費総額に対する割合 (%)	教員1人あたりの額	研究費 (円)	研究費総額に対する割合 (%)	教員1人あたりの額	研究費 (円)	研究費総額に対する割合 (%)	教員1人あたりの額		
法経科	学内	研究費総額	5,720,000	100%	408,571	5,460,000	100%	390,000	5,460,000	100%	390,000		
		経常研究費	3,430,000	60%	245,000	3,430,000	63%	245,000	3,430,000	63%	245,000		
		学内共同研究費			0			0			0		
	学外	経常研究費	1,890,000	33%	135,000	2,030,000	37%	145,000	2,030,000	37%	145,000		
		科学研究費補助金	400,000	7%	28,571			0			0		
		政府もしくは政府関連法人からの研究助成金			0			0			0		
		民間の研究助成財団等からの研究助成金			0			0			0		
		奨学寄附金			0			0			0		
		受託研究費			0			0			0		
		共同研究費			0			0			0		
		その他			0			0			0		
		生活科学科	学内	研究費総額	6,070,000	100%	404,667	6,420,000	100%	428,000	6,960,000	100%	435,000
				経常研究費	2,925,000	48%	195,000	2,925,000	46%	195,000	3,120,000	45%	195,000
				学内共同研究費			0			0			0
学外	経常研究費		2,025,000	33%	135,000	2,175,000	34%	145,000	2,320,000	33%	145,000		
	科学研究費補助金		1,020,000	17%	68,000	1,320,000	21%	88,000	1,520,000	22%	95,000		
	政府もしくは政府関連法人からの研究助成金				0			0			0		
	民間の研究助成財団等からの研究助成金				0			0			0		
	奨学寄附金				0			0			0		
	受託研究費		100,000	2%	6,667			0			0		
	共同研究費				0			0			0		
	その他				0			0			0		

[注] 1 「経常的経費」は、個人研究費の他、旅費、図書購入費、機器備品費、研究用消耗品費、アルバイトなどへの謝金等を含む。

2 「学内共同研究費」は、競争的な共同研究費を示す。

3 「学外の経常研究費」は、教育振興会からの研究費・旅費補助を含む。

表18 科学研究費の採択状況

学科	文 科 省 科 学 研 究 費								
	2013年度			2014年度			2015年度		
	申請 件数(A)	採択 件数(B)	採択率(%) B / A*100	申請 件数(A)	採択 件数(B)	採択率(%) B / A*100	申請 件数(A)	採択 件数(B)	採択率(%) B / A*100
法経科	0	0	0.0	1	0	0.0	0	0	0.0
生活科学科	3	0	0.0	4	1	25.0	1	0	0.0
計	3	0	0.0	5	1	20.0	1	0	0.0

[注] 1 採択件数には、当該年度新規に採択された件数のみ示す。

表19 教員研究室の状況（2015年度）

学 科	室 数			総面積 (㎡)	1室あたりの 平均面積 (㎡)		専任教員数 (B)	個室率(%) A／B*100	教員1人あた りの平均面積 (㎡)	備 考
	個室(A)	共 同	計		個 室	共 同				
法経科	14	2	16	353.0	19.5	40.0	14	100%	25.2	
生活科学科	13	1	14	381.9	26.9	32.5	15	87%	25.5	2
計	27	3	30	734.9						

[注] 1 「備考」欄には、個室を持たない教員数を示す。

表20 専任教員の担当授業時間数（2015年度）

法経科（14人）

教 員 区 分	教 授	准 教 授	講 師	助 教	備 考
最 高	14.2 授業時間	12.2 授業時間			1 授業時間：45分
最 低	0.0 授業時間	6.2 授業時間			
平 均	10.5 授業時間	10.5 授業時間			

生活科学科（15人）

教 員 区 分	教 授	准 教 授	講 師	助 教	備 考
最 高	13.1 授業時間	10.1 授業時間		4.1 授業時間	1 授業時間：45分
最 低	10.1 授業時間	0.0 授業時間		4.1 授業時間	
平 均	11.3 授業時間	8.4 授業時間		4.1 授業時間	

[注] 1 表 3 で算出した毎週授業時間数をもとに、1 週間あたりの授業時間数を記載した。

表21 公開講座の開設状況

講座名	年間開設講座数(A)			募集人員(延べ数)			参加者(延べ数)(B)			1 講座当たりの 平均受講者数 (B) / (A)		
	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
オープンカレッジ	10	9	10	600	540	600	292	302	448	29	34	45
地域連携講座	2	2	2	120	120	120	57	87	121	29	44	61
出前講座	7	14	20	178	668	849	178	668	849	25	48	42
計	19	25	32	898	1,328	1,569	527	1,057	1,418	28	42	49

表22 校地、校舎、講義室・演習室等の面積（2015年度）

校 地 ・ 校 舎				講 義 室 ・ 演 習 室 等	
校地面積（㎡）	設置基準上必要 校地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	設置基準上必要 校舎面積（㎡）	講義室・演習 室・ 学生自習室総数	講義室・演習室・ 学生自習室 総面積（㎡）
24,871㎡	8,000㎡	6,879㎡	5,700㎡	27	2,530㎡

[注] 1 校舎面積には、講義室、演習室、学生実習室、実験・実習室、研究室、附属図書館（書庫、閲覧室、事務室）、管理関係施設（学長室、応接室、事務室、医務室等）、大学ホール、廊下、便所等を含む。

表23 学科・専攻毎の講義室・演習室等の面積・規模（2015年度）

講義室・演習室 学生自習室等	室 数	総面積 (㎡)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	学生総数	在籍学生1人あ たり面積 (㎡)	備 考
講 義 室			生活専用				
			法経専用				
	11	1,124	共用	940	526	2.14	
演 習 室	1	45	生活専用	12	316	0.14	
	5	75	法経専用	60	210	0.36	
	2	160	共用	75	526	0.30	
実 験 室	2	265	生活専用	100	316	0.84	
			法経専用				
			共用				
実 習 室	5	700	生活専用	241	316	2.22	
			法経専用				
	1	161	共用	52	316	0.51	
体 育 館	1	1,519					

表24 図書資料の所蔵数（2015年度）

図書館の名称	図書の冊数（冊）		定期刊行物の種類（種類）		視聴覚資料の所蔵数（点数）	電子ジャーナルの種類（種類）	過去3年間の図書受け入れ状況			備考
	図書の冊数	開架図書の冊数（内数）	内国書	外国書			2013年度	2014年度	2015年度	
三重短期大学附属図書館	92, 213	35, 000	#####	32種類	906種類	0種類	1, 829	2, 145	2, 048	

[注] 1 視聴覚資料の蔵書数は、タイトル数を示す。

表25 学生閲覧室等の面積・座席数（2015年度）

図書館の名称	学生閲覧室	学生収容定員 (B)	収容定員に対する 座席数の割合(%) $A/B \times 100$	その他の学習室の 座席数	備 考
	座席数 (A)				
三重短期大学附属図書館	76	800	9.5	0	

表26 図書館利用状況

図書館の 名称	専任 スタッ フ数	非常勤 スタッ フ数	年間 開館日 数	開館時間	年間利用者数(延べ数)			年間貸出冊数		
					2013年度	2014年度	2015年度	2013年度	2014年度	2015年度
三重短期大学 附属図書館	2 (2)	1.5 (1.5)	228	月～金 8:30～21:00	3,862人	3,558人	3,343人	6,528冊	6,340冊	6,125冊
				土 10:30～19:30 (1月・7月第3土曜日のみ)	教職員 368 学生 3,494	教職員 305 学生 3,253	教職員 337 学生 3,006	教職員 660 学生 5,868	教職員 601 学生 5,739	教職員 661 学生 5,464
				日祭日						
				長期休暇中 8:30～17:00						

[注] 1 () 内数字は司書の資格を有するものの人数を示す。

2 年間利用者数・貸出し冊数には、一般開放による地域住民等は含まない。

表27 歳入・歳出決算表

(円)

歳入・出	内訳	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
歳入合計		636,562,330	546,821,625	556,310,210	591,250,490	611,114,496	551,468,097	574,220,000
	授業料	226,460,500	224,207,500	221,812,500	217,005,000	223,595,500	217,225,000	212,666,000
	入学料	57,890,000	52,575,200	62,946,000	50,357,000	52,150,400	55,925,100	57,376,000
	入学検定料	11,988,000	12,052,000	12,287,000	13,562,000	11,634,000	13,348,000	12,570,000
	その他歳入	25,330,930	7,722,662	8,039,977	45,614,437	8,782,133	7,959,822	7,910,000
	一般財源	314,892,900	250,264,263	251,224,733	264,712,053	314,952,463	257,010,175	283,698,000
歳出合計		636,562,330	546,821,625	556,310,210	591,250,490	611,114,496	551,468,097	574,220,000
	①一般職給	440,111,519	437,898,667	436,327,476	432,240,834	435,419,791	433,581,648	443,636,000
	②大学管理運営事業	77,270,133	78,242,995	81,962,547	81,971,330	85,416,966	85,099,170	92,040,000
	③図書館管理運営事業	18,424,407	10,767,335	10,936,070	10,727,457	10,918,489	10,372,135	11,614,000
	④地域貢献推進事業	1,468,313	1,332,517	1,250,684	1,266,010	1,482,830	1,102,125	1,530,000
	⑤公開講座運営事業	937,958	665,724					
	⑥地域問題研究事業	2,221,010	2,210,326	2,341,598	2,307,389	2,361,986	2,355,300	2,480,000
	⑦教育研究関係事業	14,247,917	13,607,832	12,927,675	12,885,876	13,286,855	12,912,875	14,020,000
	⑧施設維持補修事業	4,085,523	2,096,229	10,564,160	49,851,594	62,227,579	6,044,844	8,900,000
	⑨施設整備事業	77,795,550						

(各年決算資料より作成 2016年度は予算額)

表28 教授会開催状況（2015年度）

開催 年月日	定例・臨 時の別	出席数 (人)	欠席数 (人)	審議事項
4/16	定例	34	2	1 休・退学願について 2 既修得単位の認定について 3 平成27年度法経科・生活科学科時間割、開設講座表について 4 平成27年度各種委員会委員（案）について 5 非常勤講師の採用について 6 非常勤講師等委嘱依頼について 7 地域問題研究所研究員の承認について 8 その他（研究費の不正使用防止に係る諸規程の改正について）
5/21	定例	33	3	1 退学願について 2 平成28年度入学試験について 3 専任教員の公募について 4 平成27年度前期授業料減免について 5 非常勤講師等委嘱依頼について 6 その他（平成27年度高校訪問について）
6/18	定例	33	3	1 退学願について 2 平成27年度生活科学科開設講座表・時間割について 3 三重大COC+事業への参加の可否について 4 三重県高等教育機関魅力向上支援補助金公募への申請の可否について
7/16	定例	33	3	1 退学願について 2 三重県高等教育機関魅力向上支援補助金の申請について 3 行事日程（学位記授与式）について 4 その他（地研研究員の追加承認について）
9/10	定例	33	3	1 平成27年9月卒業判定について 2 退学願について 3 非常勤講師の採用について 4 平成27年度法経科・生活科学科後期開設講座表及び時間割について 5 天候状況等による休講措置について 6 津市まち・ひと・しごと創生総合戦略について 7 平成28年度予算について 8 行事日程（入学式）について 9 授業料減免審査基準について 10 その他（地研研究員の追加承認）
10/1	臨時	34	2	1 平成28年度関連分野特別選抜試験合否判定について 2 清道准教授の休職願について 3 平成28年度予算（政策的経費）について
10/15	定例	34	2	1 法経科教員公募（第一次選考）について 2 退学願について 3 その他（津市まち・ひと・しごと創生総合戦略）について
11/19	定例	34	2	1 法経科教員公募（第2次選考）について 2 非常勤講師の採用について 3 退学願について 4 平成28年度前期行事予定について 5 平成28年度開設講座表について 6 人事評価制度について 7 平成28年度予算について 8 その他（三宅教授の在外研修の承認について）
11/29	臨時	32	4	1 平成28年度推薦入学者及び社会人特別選抜入学試験の合否判定について 2 非常勤講師の採用について
12/17	定例	32	4	1 非常勤講師の採用について 2 平成28年度開設講座表、時間割について 3 「高等教育コンソーシアムみえ（仮称）」への参加について

11/30	臨時	32	4	1 平成27年度推薦入学者及び社会人特別選抜入学試験の合否判定について 2 非常勤講師等委嘱依頼について
12/17	定例	32	4	1 非常勤講師の採用について 2 平成28年度開設講座表、時間割について 3 「高等教育コンソーシアムみえ（仮称）」への参加について
1/21	定例	33	3	1 非常勤講師の採用について 2 平成28年度開設講座表・時間割について 3 退学願について 4 清道准教授の休職願について
2/3	臨時	30	6	1 平成28年度行事予定について 2 障がい学生支援委員会について 3 山川准教授の割愛について 4 その他（津市合併10周年冠事業について）
2/8	臨時	33	3	1 法経科第1部、生活科学科一般入試合否判定について
2/10	臨時	28	8	1 市長への報告書について
2/25	臨時	33	3	1 センター試験利用入試合否判定について 2 平成28年度生活科学科後期時間割について
2/25	臨時	21	10	1 市長への報告書について
3/3	臨時	30	6	1 平成27年度卒業判定について 2 平成27年度栄養士免許取得要件の判定について 3 平成27年度教員免許取得要件の判定について 4 再入学希望者に係る審査について
3/14	臨時	27	9	1 平成28年度法経科第2部（一般、社会人）及びセンター試験利用（Ⅱ期）入試合否判定について

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

法経科

所属：法経科		職名：教授	氏名：雨宮照雄
Ⅰ 研究活動			
1 研究課題：財政学 地方財政論			
2 研究活動実績			
著書			
論文	ふるさと納税の問題点『地研通信』（2016年2月）		
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究	三重県地方自治研究センターとの共同研究「三重県における市町村合併の財政検証」		
Ⅱ 教育活動			
1 担当科目：'財政学（法Ⅰ、昼、後期、4）'、'財政学（法Ⅱ、夜、後期、4）'、'地方財政論（法Ⅰ、昼、前期、2）'、'地方財政論（法Ⅱ、夜、前期、2）'、'経済学入門（基礎、昼、前期、2）'、'自治体行政特論（共通、昼、前期、2）'			
2 教育活動実績			
課外活動指導	女子バレーボール部部長		
学内教育活動 (その他)			
教育上の工夫	財政学 法1, 法2とも全ての項目における評価が4.5を上回っており、現在の授業の進め方で、さほど問題はないと思われる。		
	地方財政論 法1、法2とも、全ての項目における評価が4.5を上回っており、問題ないと思われる。板書をしなくていいように、かなり詳しいレジュメを配布しているが、学生からは板書して欲しいという意見も少なくない。私としては、黒板を使って説明した方が効果的とはあまり考えていない。		
	経済入門(経商) 全ての項目における評価が4.5を上回っており、問題はないと考えている。経済入門では、働き方(労働)、貧困、社会保障、税制などの問題を取り上げている。いずれも、様々な議論が行われている問題であるので、できるだけ新聞報道、雑誌記事などをつかって、現在の社会に対する学生の興味を引き出すよう工夫している。「レポートの返却」の評価が高かったが、経済入門の目標の一つがレポートの書き方を習得することにおいているので、レポートは添削して返却するよう心がけている。		
	自治体行政特論		
Ⅲ 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	大学基準協会短期大学評価委員、大学基準協会短期大学評価財務分科会主査		
学外講演会講師等	津市図書館 暮らしに役立つ図書館講座「消費税軽減税率を巡って」2016年3月		
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
市町村合併や地方交付税の見直しなど、地方制度は今大きな転換点を迎えている。大幅な政府部門の赤字を背景に地方財政はいつそうの効率化を要請され、また、地方分権の中で自己決定・自己責任原則が重視されてきている。地方自治の原則に立ちながら、市町村合併の是非を検討し、税財源委譲や地方交付税・国庫支出金の見直しなど地方財政の望ましい在り方を探っていきたい。 （研究テーマの応用例：消費税の在り方、市町村合併の財政検証、公会計改革、三重県下市町の財政分析）			

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：竹添敦子
Ⅰ 研究活動			
1 研究課題：山本周五郎研究、文学とエンターテインメントの接点に関する研究			
2 研究活動実績			
著書	『「日本婦道記」論』 双文社出版 2015 年		
論文			
その他			
学会報告	「山本周五郎の新ペンネーム『甲野信三』について」三重文学研究会、2014年8月3日		
共同研究			
助成研究			
Ⅱ 教育活動			
1 担当科目：文学Ⅰ（共通、昼、前期、2）、文学Ⅰ（共通、夜、前期、2）、文学Ⅱ（共通、昼、後期、2）、文学Ⅱ（共通、夜、後期、2）、比較文化論（共通、昼、前期、2）、比較文化論（共通、夜、前期、2）、独語Ⅰ（基礎、夜、通年、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	三重短期大学文学同好会顧問		
学内教育活動 (その他)	四年制大学への編入を希望する学生に、論文の書き方指導、面接指導を個別に実施した。		
教育上の工夫	「文学Ⅰ」 特に講義方法を変えたわけでもないが、昼の講義は 41 番教室のマイクの調子が悪いことも多く、少々苦勞した。一方、夜の方は、小教室での講義であった。学生の顔が見えやすく、それだけでも講義が身近になるのだろう。とはいえ、講義中に学生の声をあまり聴取できなかった点は心残りである。一部映像を使用したことでメリハリがついたということもあろう。 さまざまな作家の作品を読んだこともあり、「たくさん小説を読めて良かった」という意見があった。自らは選んで読むことのない作品との出会いが、文学への興味につながったのなら幸いである。 「学生の質問や意見」はプリントで対応していたつもりだが、学生の記述に対し、もう少し丁寧にかたえるべきだった。本年度は後期に 7 コマ担当しており、特にこの日は文学Ⅰと文学Ⅱを講じるという「無茶」な時間割であった。そのため、採点に追われたことも事実である。今後はプリントの返答の際、いっそう丁寧な対応を心がけたい。		
	「文学Ⅱ」 馴染みのない時代小説、しかも女性を主人公にした作品を扱ったにしては反応が良かった。作品の質の高さに理由はあるが、学生が主人公に自分を仮託して、さまざま人生を考えるきっかけになったようである。 昼の講義は学生にとっては眠くなる時間帯であるし、教室も大きすぎた。しかし、騒がしいこともなく、おしゃべりもほとんどなかった。しっかりテキストに向き合うことが確認でき、有り難かった。受講生の年齢層がさまざまな二部の場合、毎回のレポートにさまざまな意見が記入されており、こちらも刺激になることが多い。今年度の特徴は長文の記述が目立ったことである。大変有り難いことだった。 自由記述には、「高校の現代文とはまったく異なっており、文化背景、時代背景などを総合して検討できた」という意見があった。大学の講義を堪能してもらえたということであろう。テキストの作品のうち、半数を扱えなかった。授業の深度と進度の関係については永遠の課題である。それをどう調整、工夫するべきか、今後も考え続けたい。 講義終わりのプリントは毎回テーマに即した詩を選んだので、学生が楽しみにしていることが分かった。今後もこの授業方法を続けるつもりである。		
	「独語Ⅰ」 前・後期で担当教員が変わったということもあり、学生には迷惑をかけた。しかし、例年に比べ、全体に受講生の水準が高い印象であった。教科書がやや高度だったため、後半に急いだことは学生にとっては厳しかったと思う。それでもきちんと課題をこなし、努力していることがわかり、有り難かった。自由記述には「内容が充実していた」「ドイツ語への理解を深めることができた」という意見があった。真面目な学生ゆえの感想であろう。 学生の質問や意見についての評価が低かったのは、とにかく一定程度の内容をこなそうとしたことが理由であろう。外国語を習得するにはいかにも時間数が少なかったということである。来年度は時間配分に工夫をし、質問をしやすくする方法を考えたい。		

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

「比較文化論」 教材を使用せず、レジュメのプリントと映像、さらには毎回の小レポートだったので、学生にとっては作業の多い講義であった。小レポートについては採点に追われ、丁寧な返答ができなかった点を反省している。 自由記述欄の書き込みにもあったが、講義のテンポは速いが、映像がそれを補完してくれるので理解につながるようだ。身近なテーマを掘り下げる過程を楽しんで講義を聴いた学生が多かったのだと思う。ただし、星の講義はいかにも受講生が多かった。受講環境は良くなかったはずだが、プロジェクターの設備が整ったこともあり、設営に無駄な時間をとることがなくなった。その分講義がスムーズだったのは有り難いことである。 映像の素材を探すのは本当に大変だが、今後もこの方式を続けてゆきたい。 例年前期科目であるが、本年度は後期になり、夜は受講生が少なかったので教えやすく、すべての学生に目が届いた。Q6学生の質問や意見が低かったのは、毎回の小レポート作成に手一杯で、質問まで書き込めなかったせいであろう。残念だったのは、小教室での講義であったため、小さなテレビ画面で映像を流すしかなく、学生にとっては見にくいという切実な問題があったようだ。 自由記述の中に「一週間のうち最も楽しい講義であった」と書いている学生がいて、大変嬉しく思った。講義内容が他の講義とかぶる箇所もあり、学生には多いに刺激になったようだ。今後もできるだけ適切な映像を使用し、講義内容のイメージを形成できるよう努めたい。	
学会等及び社会における主な活動	
1 所属学会：日本独文学会、阪神ドイツ文学会、三重文学研究会、りべるたすの会、ゲルマニスティネンの会	
2 社会活動実績	
地域連携事業	出前講義（有造館ゼミナール）「文学にあらわれた郷土三重―津および藤堂藩の物語―」2015年4月10日
	出前講義（白寿会）「時代小説は庶民をどう描いているか」2015年6月24日
	三重短期大学オープンカレッジ「戦前・戦中の女性雑誌と『婦道』」2015年10月3日
	三重短期大学地域問題研究所地域連携学習会「メディアと戦争」、2015年11月22日
	出前講義（青山高校）「文学に描かれた私たちの町」2016年2月25日
学外審議会委員等	りべるたすの会『りべるたす』編集委員
学外講演会講師等	津演劇鑑賞会「『春、忍び難きを』を観る前に」、2015年4月9日
	津演劇鑑賞会「『ブンナよ、木からおりてこい』を観る前に」、2015年6月4日
	津演劇鑑賞会「『父よ暮せば』を観る前に」、2015年8月6日
	津演劇鑑賞会「『王女メディア』を観る前に」、2015年10月6日
	津演劇鑑賞会「『夢千代日記』を観る前に」、2015年12月11日
	津図書館文学講座「葉室麟を味わう」、2016年1月23日
	津演劇鑑賞会「『もし、終電に乗り遅れたら…』を楽しむために」、2016年2月16日
その他の社会活動	三重県ユニセフ協会評議員、津演劇鑑賞会幹事
他大学非常勤講師	放送大学三重学習センター
3 一言アピール ライフワークは周五郎作品の定本確定です。周五郎文学のすばらしさを次代に伝えるため、基礎資料づくりに専念します。 （研究テーマの応用例：昭和期の大衆文学および雑誌文化）	

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：茂木陽一
Ⅰ 研究活動：			
1 研究課題：伊勢商人論、東海大一揆研究、近代マビキ慣行研究、藩札研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他	資料紹介「大蔵省考課状 紙幣寮 旧藩札ノ部」 単著 三重法経 145号 2016年3月 書評 塚本明「近世伊勢神宮領の蝕蝕観念と被差別民」 単著 部落問題研究 215号 2016年3月		
学会等報告	近世史フォーラム「マビキと捨て子の間」（2016年2月、大坂市）		
共同研究 助成研究	文化庁・三重県・松阪市「長谷川家文書調査」		
	科研費補助金 基盤研究（B）「行き倒れに関する国際的地域比較史研究—移動する弱者の社会的救済・行政的対応の分析」（代表藤本清二郎 連携研究者）		
	2015年度地域問題研究所研究員「近代マビキ慣行の比較研究」		
Ⅱ 教育活動			
1 担当科目：経済史（法1、昼、前期、4）、経済史（法2、夜、前期、4）、歴史学（法1、食栄、生活、昼後期、2） 歴史学（法2、夜後期、2）、演習（法1、昼通年、4）、社会科学演習（法2、夜通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	バドミントン部顧問		
学内教育活動 （その他）	第1部演習、第2部社会科学演習受講者による卒業論集『経済史論集ⅩⅢ』を編集		
教育上の工夫	「経済史」（法経科第一部：前期） 総合評価は一昨年度・昨年度から5.39→5.60→5.07となり、相当程度低下している。特に知的刺激と学生の興味を引く工夫の評価が低い。他項目に比べてこの2項目が相対的に低いのは例年のことであるが、特に、今年度は評価が低かった。昨年度の評価から出席カードの工夫が課題であったが、改善を果たすことが出来なかった。復習用の講義録の配布は昨年度から引き続いて行っているが、この点では、教材の評価の高さに結びついていると思う。 ○来期へ向けた課題 知的刺激と学生の興味を引く工夫は毎年の課題であるが、十分知的刺激になると思っている教える側と受講生のギャップがどこにあるのかいまだにつかめていない。		
	「経済史」（法経科第二部：前期） 総合評価は一昨年度・昨年度と比較して5.15→5.55→5.42と推移して、一定の評価を維持している。学生の興味を引く工夫が低いのは例年の通りである。座学の限界だと思うので、この点での工夫を模索しているところである。昨年度の課題として講義録を事前に配布するか、事後に配布するかの問題があるが、教材についての評価は低くはないので、この点で変更する必要はないかも知れない。 ○学生の興味を引く工夫として、HPによるプレゼンの改善だけでは限界があるので、参加型の授業を工夫する必要があるかも知れない。そのため、課題を呈示してそれについての学生相互のディベートをコーディネートしてみるのも一案だと思う。学生は全般に指名されて質問されるのを忌避する傾向があるが、参加型の講義にする工夫を考えてみたい。		
	「歴史学」（法経科第一部：後期） ○今年度の総合評価は4.91→5.53へと改善した。この点で、昨年度の学生の授業評価の異常さが際だっている。異常さの理由は、特定の学生が 731 部隊の実態を示すビデオを流したことに異様なまでの反発を示し、多数の受講生がそれに同調したことだったが、歴史を学ぶ中で、アウシュビッツや広島原爆被害の悲惨さから目を背けるべきではないが、昨年度の受講生には、そうした悲惨さから目を背けようとする意識が過剰にあったと思われる。授業評価アンケートの結果からは昨年度の受講生に限定された一過性の様に見えるが、近年の中高教育がもたらした結果である可能性も否定できない。 ○来期へ向けた課題 昨年度と今年度の評価の落差をどう理解するべきかについて、いまだ結論が出ていない。FD 意見交換会でも提起したが、もっと具体的なデータが得られるような実践を工夫してみたい。また、小テストを 4 回実施したが、欠席した場合、追試の要件として診断書、事故証明などの証明を求めると、追試を希望する者が減ってしまう。この点で、追試の要件を緩和すべきかどうか、たとえば申出があればすべて認めるとか、欠席理由について本人の説明をすべて受け入れるとか、という事が考えられるが、この点の検討が必要である。		
	「歴史学」（法経科第二部：後期） 一昨年度・昨年度からの総合評価は5.36→5.55→5.61と高い水準を保っている。法Ⅱでの講義のやり方については、変更する必要はないと思われる。特に、QAについては、自由記述でも評価する学生が複数いるので、今後も続けていきたい。 ○来期へ向けた課題 法Ⅰと同様に、小テストを4回実施しているが、欠席した者に対する追試実施の要件をどうするか工夫が必要である。また、受講生が途中で減少するのが毎年の課題である。小テストがバーになっているのか、レポートの要求水準が高すぎるのか、検討していきたい。		
	演習（法1、昼通年、4） 卒論作成をメインにして、基礎文献の輪読、資料・文献の收拾・分析の工夫、研究報告におけるHPを利用した工夫、という積み上げを実施しているが、当初から、第二希望で入ってきたゼミ生のモチベーションが低く、指導を強めると、欠席してしまうという結果になってしまった。この点、最初のモチベーションの低さを高める工夫が必要であるが、成功していない。		
	社会科学演習（法2、夜通年、4） 卒論作成をメインにして、前期はテキストの輪読を行い、後期はその中から卒論テーマを見つけ出させるよう指導したが、自分の報告の順番になるとドタキャンするようなモチベーションの低さをどのように改善するかが見えてこない。引き続き課題である。		
Ⅲ 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：歴史学研究会、日本史研究会、部落問題研究所、三重郷土研究会、民衆思想研究会			

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

2 社会活動実績	
地域連携事業	出前講座「胎児をめぐる生命倫理問題」（2016年2月、青山高校）
学外審議会委員等	三重県史編纂専門委員、松阪市長谷川家文書調査委員
学外講演会講師等	三重県総合博物館講演「明治前半期の政治・行政と東海大一揆」（2016年2月14日）
その他の社会活動	
他大学非常勤講師	
3 一言アピール 自分の研究は、伊勢・伊賀、あるいは三重県という地域の中にある一揆・貨幣・人口変動といった素材を全体史との相互作用の中で意味づけていくというスタイルです。単なるお国自慢ではない新たな歴史を見る目を模索しています。 （研究テーマの応用例：近世伊勢商人経営を伊勢湾岸地域と江戸との人・物・金・情報のネットワークに位置づける。1876年の東海大一揆を地方自治、議会を通じた住民合意形成の発端として位置づけていく。近代三重県域のマビキ慣行を手がかりに江戸期以降の女性史に新たな視点を付け加える）	

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：金江 亮
I 研究活動			
1 研究課題：マルクス派最適成長理論			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「再生可能資源の動学的経済効果—三部門成長モデルによる理論分析—」京都大学『経済論叢』第189巻第2号2015年6月 「労働価値説と効用価値説」地研通信第119号		
その他			
学会等報告	「マルクス派最適成長論のハミルトニアンを経済学的意味」基礎経済科学研究所第38回研究大会 関西大学 2015年8月 “Piketty's $r > g$ Caused by Labor Exploitation; A Proof by Marxian Optimal Growth Theory” 経済理論学会 一橋大学 2015年11月 「マルクス派世代重複モデル基礎経済科学研究所第39回研究大会 名古屋学院大学さかえサテライト」 2016年3月		
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：			
2 教育活動実績			
課外活動指導	将棋囲碁部顧問		
学内教育活動 (その他)	第一部「演習」、第二部「社会科学演習」のゼミ生による卒業論文集「アベノミクスについて」のCD作成		
教育上の工夫	グラフや図表が多いテキストを使い、板書しています。具体例を入れるようにしています。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール (研究テーマの応用例：資産・所得格差の分析、国や地域の経済成長の分析)			

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：立石芳夫
I 研究活動			
1 研究課題：地方制度、地方自治制度			
2 研究活動実績			
著書	『平成の大合併』と市町村の変容 土岐寛編著『行政と地方自治の現在』北樹出版、2015年		
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：「行政学」（食栄・生活・法Ⅰ、昼、後期、4）、「行政学」（法Ⅱ、夜、前期、4）、「地方政治論」（法Ⅰ、昼、前期、4）、「演習」（法Ⅰ、昼、通年、4）、「社会科学演習」（法Ⅱ、夜、通年、4）、自治体行政特論（共通、昼、前、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	クラス担任、オフィスアワー、編入学指導など		
教育上の工夫			
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本政治学会、日本行政学会、日本地方自治学会、日本科学者会議			
2 社会活動実績			
地域連携事業	オープンカレッジ「平成の大合併のその後」（15年9月）		
学外審議会委員等	日本科学者会議常任幹部（～15年5月）		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール 地方分権改革の到達点を踏まえつつ、地方自治制度の現状と課題を考察していくことを心がけている。 (研究テーマの応用例：市町村合併、地域自治組織に関する研究)			

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

所属：法経科		職名：教授・学生部長	氏名：村井美代子
I 研究活動			
1 研究課題：19世紀イギリス・ロマン派の詩			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：「英語Ⅰ」（基礎、昼2クラス、通年、2）、「英語Ⅰ」（基礎、夜1クラス、通年、2）、「英語講読」（共通、昼1クラス、通年、2）、「英語講読」（共通、夜1クラス、通年、2）、「キャリア形成セミナー」（共通、昼1クラス、前期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	ソフトテニス部顧問		
学内教育活動	四年制大学への編入学を希望する学生に、学習方法などの指導を個別に行った。		
（その他）	TOEIC問題集や関連書の貸し出しを行い、TOEIC学習方法などの指導を個別に行った。		
教育上の工夫	「英語Ⅰ」（法経科Ⅰ部・Ⅱ部・生活科学科：通年） 授業中の私語もなく、出席率も高く、指名した際の授業準備もよくできていた。経済関連のニュースを扱うテキストを使用した が、章によって内容の読みやすさにばらつきがあったように思う。今後はテキスト選び、また取り扱う章の選択を慎重に行いた い。特にコメントはなかったが、テキストの進み具合が遅く、後期末にはシラバスに記載した予定進捗度とかなり開きが出て しまった点を反省している。		
	「英語講読」（法経科Ⅰ部・Ⅱ部・生活科学科：通年） 前後期を通して遅刻はほとんどなく、クラス全体が非常に真面目で私語もなく、指名した際の授業準備もよくできていた。課題の 提出率も高かった。例年のことだが、テキストの進み具合が遅く、後期末にはシラバスに記載した予定進捗度と開きが出てしま った点を反省している。より慎重に年間計画を立てたい。テキストが難解かと気になっていたが、特にコメントはなかった。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本英文学会、イギリス・ロマン派学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	津市図書館協議会委員、三重県情報公開審査委員		
学外講演会講師等	『「赤毛のアン・シリーズ」にみる作家の横顔』津市都市間講座講演 2015年		
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
きっかけは映画や翻訳作品であっても、異文化に興味を持ち、最終的には原語で詩や小説を読みたい楽しさを共有できればと思っています。 （研究テーマの応用例：英訳に描かれた人と自然）			

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

所属：法経科		職名：教授、図書館長	氏名：楠本孝
I 研究活動			
1 研究課題：ヘイトスピーチ、外国人法制、精神障害者の犯罪の研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究	2015年度地域問題研究所研究員「大阪市のヘイトスピーチ規制条例について」		
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：刑法（法Ⅰ、昼、前期、4）、刑法（法Ⅱ、夜、前期、4）、刑事政策（法Ⅰ、昼、後期、2）、法学基礎演習（法Ⅰ、昼、前期、2）、演習（法Ⅰ、昼、通年、4）、社会学演習（法Ⅱ、夜、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	法経科第1部及び第2部のゼミ生を引率して和歌山刑務所見学（2015年9月）		
教育上の工夫	刑法、刑事政策とも「学生の意見や質問」の項目の評価が比較的低いので、改善したい。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本刑法学会、日本犯罪社会学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	出前講義「近時の少年非行と少年法について」2016年3月		
学外審議会委員等	津市青少年問題協議会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
排除型社会から包摂型社会への移行、非寛容社会から寛容社会への移行はどうすれば可能かについて考えています。 （研究テーマの応用例：ヘイトスピーチの刑事規制、裁判員裁判の下での精神鑑定の位置づけ、心神喪失者等医療観察法の研究）			

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

所属：法経科		職名：教授、法経科長	氏名：石原洋介
I 研究活動			
1 研究課題：東アジアにおける金融・経済協力、中国におけるバブルの形成と金融格差、世界の南北格差の解決に向けての研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：「金融論」（法1、後期、2単位）、「金融論」（法2、前期、4単位）、「国際経済論」（法1、前期、2単位）、「国際経済論」（法2、前期、2単位）、「演習」（法1、通年、4単位）、「社会科学演習」（法2、通年、4単位）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	短大生協専務理事(2015.9まで、以降は理事)、サッカー部顧問、演劇鑑賞同好会顧問		
学内教育活動 (その他)			
教育上の工夫	法Ⅰ「金融論」（後期） 金融論は四年制大学の経済学部では三年次以降に配置されることが多いため、短大生には難解な金融理論の解説よりも、いわゆる金融リテラシー教育に重点をおいてカリキュラムを組んでいる。図や表を多用してわかりやすいレジュメ作成に努めている。		
	法Ⅱ「金融論」（前期） 金融論は四年制大学の経済学部では三年次以降に配置されることが多いため、短大生には難解な金融理論の解説よりも、いわゆる金融リテラシー教育に重点をおいてカリキュラムを組んでいる。図や表を多用してわかりやすいレジュメ作成に努めている。		
	法Ⅰ「国際経済論」（前期） 現在の新自由主義的グローバリゼーションがもたらした経済格差の拡大や国際金融の不安定化について理論、歴史、具体的事例、今後の課題と展望を学べるように、カリキュラム編成している。特に私の専門研究対象であるアジア経済を重点的にとりあげ、これまでの研究成果を生かした内容を教授するようにしている。		
	法Ⅱ「国際経済論」（後期集中講義） 現在の新自由主義的グローバリゼーションがもたらした経済格差の拡大や国際金融の不安定化について理論、歴史、具体的事例、今後の課題と展望を学べるように、カリキュラム編成している。特に私の専門研究対象であるアジア経済を重点的にとりあげ、これまでの研究成果を生かした内容を教授するようにしている。		
	法Ⅰ「演習」（通年） 金融論演習では学生の興味関心を喚起するため夏季休暇を利用して日本銀行、貨幣博物館、東京証券取引所の見学に行くことにしており、前期はそれに向けた準備として日本銀行の機能や役割について学ぶようにしている。また、後期は卒論指導（小論文コンクールで代替可）とともに、学生の興味関心に即したテーマを設定してゼミを行っている。		
	法Ⅱ「社会科学演習」（通年） 社会科学演習では現代グローバリズムがもたらした諸矛盾を学び、どうすれば解決できるのかを学生とともに議論している。また、後期は学生の興味関心に即したテーマを設定してゼミ指導をしている。卒論指導（夏の小論文コンクールで代替可）や学園祭への参加も積極的に取り組んでいる。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本金融学会、経済理論学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	地域問題研究所地域連携学習会「安保法制学習会」における報告として「安保法制と経済成長」、2015年10月10日（三重短期大学35番教室）		
	久居高校出前講座「フェアトレードの挑戦～チョコレートで世界を変える物語～」2016年2月17日（津市久居高校にて）		
	津市教育委員会生涯学習講座「伊勢志摩サミット目前、あらためてサミットとは何か？」2016年2月27日（津市、サンター・パレスにて）		
	津市教育委員会生涯学習講座「世界が目指す伊勢志摩サミット、その論点は何か？」2016年3月5日（津市、サンター・パレスにて）		
学外審議会委員等	日本科学者会議三重支部幹事、三重県地方卸売市場運営協議会委員		
学外講演会講師等	くらしと協同の研究所公開講座「TPP協定で食の安全はどうなる」2015年11月21日（京都市、くらしと協同の研究所にて）		
	生活協同組合おおさかバルコープ学習会「TPPによって私たちのくらしはどう変わるのか？～「食」についての影響～」2016年1月22日（大阪市、おおさかバルコープにて）		
	京都生協学習会「TPPによって私たちのくらしはどう変わるのか？～「食」についての影響～」2016年2月9日（京都市、京都テルサにて）		

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

その他の社会活動	津市演劇鑑賞会代表幹事
他大学非常勤講師	三重大学人文学部「国際金融論」（後期：2単位）
3 一言アピール 新自由主義的グローバル化、とりわけ金融の自由化は世界的な金融危機を頻発させ、そのたびに世界の至る所で経済的・社会的格差が拡大してきました。公正で安定した世界経済・金融システムの構築は現代の優先課題であり、その実現に向けて少しでも貢献できるよう研究を重ねていきたいと思ひます。 （ 研究テーマの応用例：TPPが脅かす食の安全の研究、国際投資マネー規制の確立に向けての調査研究、貧困撲滅に向けた効果的な援助のあり方の研究 ）	

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

所属：法経科		職名：教授		氏名：三宅 裕一郎	
I 研究活動					
1 研究課題：アメリカ合衆国における軍事に対する立憲的統制、日本国憲法上の司法権概念の再構成					
2 研究活動実績					
著書	『18歳からわかる平和と安全保障のえらび方』（大月書店、2015年）				
論文	「憲法9条と安保関連法制の間の『切れ目』」『中小商工業研究』125号（2015年）				
その他	（書評）「憲法9条との『切れ目』を問う」（山内敏弘『「安全保障」法制と改憲を問う』（法律文化社、2015年））『法学セミナー』729号（2015年） （翻訳）クレイグ・マーティン「中世への逆行 一標的殺害、そして自衛と <i>jus ad bellum</i> の体制一」『地研年報』20号（2015年） （翻訳）ベンジャミン・マケルビー「適正手続上の権利とテロ容疑者に対する標的殺害—アメリカ大統領の殺害権限の違憲な範囲—」『三重法経』147号（2016年）				
学会等報告					
共同研究 助成研究					
II 教育活動					
1 担当科目：「日本国憲法」（法Ⅰ、通年、4）、「日本国憲法」（法Ⅱ、前期、4）、「比較憲法」（法Ⅰ、前期、2） 「演習」（法Ⅰ、通年、4）、「社会科学演習」（法Ⅱ、通年、4）、「法学基礎演習」（法Ⅰ、後期、2） 「日本国憲法Ⅰ」（食栄、生活、前期、2）、「日本国憲法Ⅱ」（食栄、生活、後期、2）					
2 教育活動実績					
課外活動指導					
学内教育活動 (その他)	主に4年制大学への編入学希望者を対象として、各大学の編入学過去問（英語）についての勉強会を週1程度で実施。				
教育上の工夫					
III 学会等及び社会における主な活動					
1 所属学会：全国憲法研究会、憲法理論研究会					
2 社会活動実績					
地域連携事業					
学外審議会委員等	名張市情報公開審査会委員 2016年3月まで、名張市個人情報保護審査会委員 2016年3月まで				
学外講演会講師等					
その他の社会活動					
他大学非常勤講師	名古屋市立大学共通教育科目（「日本国憲法」「法学Ⅰ」） 2015年9月～2016年3月				
3 一言アピール					
（ 研究テーマの応用例：アメリカ合衆国による「標的殺害(targeted killing)」の違憲性・違法性の検証、日本における国家機関による憲法訴訟の可能性の検証 ）					

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：富田仁
I 研究活動			
1 研究課題：担保物権法と信託法の研究			
2 研究活動実績			
著書	法学基礎資格取得シリーズⅡ民法を知る1（総則・物権）（中村昌美編、共著）（2015年、八千代出版）		
論文	公有地信託と受託者の費用補償請求権（公益社団法人不動産学会2015年秋季全国大会論文集31号）		
その他	（判例研究）公有地信託における受託者の費用補償請求権の成否（三重法経146号）		
学会等報告	公有地信託と受託者の費用補償請求権（公益社団法人不動産学会2015年秋季全国大会（第31回学術講演会）、2015年11月14日、於明海大学）		
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：「財産法Ⅰ」（法1、昼、前期、4）、「財産法Ⅰ」（法1、夜、前期、4）、「財産法Ⅲ」（法1、昼、後期、2単位）、「法学基礎演習」（法1、昼、後期、2単位）、「演習」（法1、昼、通年、4単位）、「社会学演習」（法2、夜、通年、4単位）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	生活協同組合三重短期大学支部理事（～2015年9月）、生活共同組合三重短期大学支部専務理事（2015年10月～）、軽音楽部顧問		
学内教育活動 （その他）			
教育上の工夫	民法Ⅰ1部 本年度の総合評価は、4.15であった。昨年は5.46であったため、1.31ポイント下がった。特にわかりやすさと板書・話し方の項目では3ポイント台の評価を受けた。これら評価を反映した授業のあり方を考慮し、来年度にいかしていきたいと思う。		
	民法Ⅰ2部 本年度の総合評価は、5.46であった。昨年は5.37であったため、0.09ポイント上がった。昨年度は4ポイント台があったが、本年度は各項目5ポイント以上の評価を得た。これら評価を反映した授業のあり方を考慮し、来年度にいかしていきたいと思う。		
	民法Ⅲ 本年度は評価の平均値を見ると、全て5ポイントを上回る評価を受けており、学生にとって良好な授業が行われたものと判断する。しかし、全評価が5.5ポイントを超えるように、更なる授業内容や環境の改善に心がけて、授業を進めていきたいと思う。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本私法学会、信託法学会、日本不動産学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	オープンカレッジ「ボランティアと民事責任」2015年7月4日（於三重短期大学）		
学外審議会委員等	桑名市情報公開・個人情報保護審査会委員、津地方裁判所委員会委員、鈴鹿市空家等対策推進協議会構成員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	名古屋市立大学人文社会学部（民法1、民法2）		
3 一言アピール			
民法の条文になく判例により創設された譲渡担保制度を今後の展望を踏まえ研究しております。また、投資等に使われる信託を民法的視点から研究しております。			
（研究テーマの応用例：担保物権法（主に譲渡担保）・信託法の法的考察および社会における現状と問題に対する総合的研究）			

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

二重短期大学教員研究 教育業績 (2016年度)

所属：法経科		職名：准教授	氏名：杉山直
Ⅰ 研究活動			
1 研究課題：トヨタの人的資源管理（特に賃金、労使関係）			
2 研究活動実績			
著書	『トヨタの躍進と人事労務管理』税務経理協会、2016年3月（共著）		
論文	「東海地区におけるコミュニティ・ユニオンの組織と活動」『地研年報』第20号、2015年11月		
	「トヨタの一時金」『中京企業研究』第37号、2015年12月		
その他	「自動車産業」大原社会問題研究所『2015年版日本労働年鑑』旬報社、2015年6月		
	「変わるトヨタの賃金制度」愛知労働問題研究所『所報』第186号、2016年1月		
	「トヨタの家族手当」『三重法経』第147号、2016年3月		
	「読書紹介 遠藤公嗣『これからの賃金』」愛知労働問題研究所『所報』第187号、2016年3月		
学会報告	「コミュニティ・ユニオンの組織と機能」地域問題研究所研究交流集会、2015年3月20日		
共同研究	地研研究「三重県における物流労働の研究」		
助成研究			
Ⅱ 教育活動			
1 担当科目：経営学（法1、昼、前期4）、経営学（法2、夜、前期4）、経営組織論（法1、昼、後期2）、経営組織論（法2、夜、後期2）、演習（法1、昼、通年4）、社会科学演習（法2、夜、通年4）、			
2 教育活動実績			
課外活動指導	卓球部顧問、ハンドボール部顧問		
学内教育活動 （その他）	クラス担任、オフィスアワー、卒業論文指導		
教育上の工夫	授業評価の結果を踏まえ、改善点を検討し、実践してきた。また授業の中で、授業の改善点を書いてもらう機会を設け、改善点を明らかにしようとしてきた。		
Ⅲ 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本労務学会、労務理論学会、日本労働社会学会、社会政策学会、北ヨーロッパ学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	「日本の賃金を考える」三重県アカデミックセミナー、2015年8月5日		
学外審議会委員等	労務理論学会幹事		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	名城大学「経営学」（2015年4月～9月）		
3 一言アピール			
トヨタ生産方式を支えるヒトの管理、特に、賃金制度及び賃金の格差構造について研究してきました。また、そうした制度や格差構造から労使関係に関心をいただき、近年は労使関係を中心に調べています。			
（ 研究テーマの応用例：地域企業における賃金制度に関わる調査研究、地域企業における労使コミュニケーションに関わる調査研究 ）			

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：山川和義
I 研究活動			
1 研究課題：労働者の引退過程に関する法政策、非正規雇用法政策に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「フランチャイズ加盟店主の労組法上の労働者性」 ソウル法学（2015年5月）277-305頁		
	「派遣労働拡大の経緯と背景」 法学セミナー731号（2015年11月）6-11頁		
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：「労働法」（法1、昼、後期、4）、「労働法」（法2、夜、後期、4）、「社会保障法」（法1、昼、前期、2）、「法学基礎演習」（法1、昼、後期、2）、「演習」（法1、昼、通年、4）、「社会科学演習」（法2、夜、通年、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	第一部「演習」・第二部「社会科学演習」における卒業論文の編集・作成、編入学指導、法経科第一部・第二部クラス担任		
教育上の工夫	各講義における双方向の工夫が十分ではなかったため、より工夫していきたいと考えている。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本労働法学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	労働委員会個別労働紛争あっせん委員、三重県男女共同参画審議会 委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
定年から公的高齢年金受給までの雇用保障のあり方をどのような形で実現すべきなのかを研究しています。就労意欲と能力のある人がその意思に従って活き活きと働くための法政策を考えます。非正規雇用労働者の増加が進む日韓の状況を比較し、その原因、法的対応を考えます。 （ 研究テーマの応用例：高齢者雇用安定法の継続雇用措置に関する法的問題の検討、非正規雇用法制の日韓比較 ）			

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：藤枝律子
I 研究活動			
1 研究課題：学校教育における参加			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「一般廃棄物処理場建設許可差止請求訴訟における景観利益に基づく原告適格と事前差止め」三重法経146号2015年11月 「地方自治体と安保法制」三重法経147号2016年3月		
その他			
学会等報告	行政判例研究会報告「葛城市一般廃棄物処理場建設差止請求事件」		
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：「行政法」（法1、昼、前期、4）、「行政法」（法2、夜、前期、4）、「地方自治法」（法1、昼、後期、2）、「演習」（法1、昼、通年、4）、「法学基礎演習」（法1、昼、後期、2）、「社会科学演習」（法2、夜、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	ハイキング同好会顧問		
学内教育活動 (その他)	クラス担任、オフィスアワー(金曜日16:00～17:30)、学外演習（裁判傍聴）、卒論作成指導		
教育上の工夫	"学生の興味を引くように、テレビのドキュメント番組等を録画したDVDを観る機会を作るようにして、講義に少し変化をもたせるよう工夫しています。少しでも社会に対して興味・関心を持てるよう、できるだけ最近のニュースを素材にして授業を組み立てることを心がけているつもりです。今後も、取り上げたテーマを、多くの学生が身近な問題として考えられるような講義になるように努力をしたいと思っています。"		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本教育法学会、日本公法学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	桑名市情報公開・個人情報保護審査会委員、津市建築審査会委員、三重県個人情報保護審査会委員、三重県収用委員会委員、三重県福祉サービス運営適正化委員会委員、津市いじめ問題対策連絡協議会委員		
学外講演会講師等	桑名市役所職員研修講師「行政法」担当(2015年6月、7月)		
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	津看護専門学校「関係法規」担当		
3 一言アピール			
教育をはじめ、行政は我々にとって身近な存在であるにもかかわらず、遠くに感じられる存在でもあります。行政の活動に対してどのように市民・住民が関心を持ち、関わり、参加していけるか、その可能性を考えていきたいと思っています。 （ 研究テーマの応用例：教育行政をはじめとする行政に対する市民・住民の参加 ）			

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：田中里美
Ⅰ 研究活動			
1 研究課題： 会計制度と法人税制―課税の公平から見た会計の役割に関する研究、内部留保の経営分析、不公正ファイナンスと財務諸表監査			
2 研究活動実績			
著書	『内部留保の経営分析』2015年9月唯学書房「第1部・第5章法人税制と内部留保」p.93-p.114		
	『内部留保の経営分析』2015年9月唯学書房「第2部・第11章資本剰余金」p.257-p.281		
	『内部留保の経営分析』2015年9月唯学書房「大橋英五先生の先行研究」p.457-p.464		
	『経済成長の幻想―新しい経済社会に向けて―』2015年11月 第3部6章「実質法人税負担率の算定分析―「税務統計からみた法人企業の実態」を調査対象として―」p.263-p.272		
論文			
その他	「会社標本調査―調査結果報告―税務統計から見た法人企業の実態」に関する調査・分析 三重短期大学地域問題研究所「地研年報」第20号2015年11月p.123-p.129		
学会等報告	「監査における不正リスク対応基準と監査手続き実施範囲の拡大」 三重短期大学法経学会（於：三重短期大学）2015年7月		
	「監査における不正リスク対応基準と監査手続き実施範囲の拡大―昭和ゴム事件を通して―」会計理論学会第30回全国大会（於：駒沢大学）2015年10月		
共同研究 助	電力産業の経営分析		
成研究	地域問題研究所研究員テーマ「法人税の実質税負担率の分析」（2016年3月まで）		
Ⅱ 教育活動			
1 担当科目：会計学（法1、昼、後期、4）、会計学（法2、夜、後期、4）、税務会計論（法1、昼、前期、2）、上級簿記（法1、昼、後期、2）演習（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	華道部顧問		
学内教育活動 （その他）	編入学試験における志望理由書の添削や、面接練習を行った。公務員就職試験における面接練習を行った。経商コースの1年生、2部の1年生のクラス担任を受け持った。毎週90分のオフィスアワーを実施した。		
教育上の工夫	会計学では、コンピュータールームを使用し、概念的理論的な講義に加えて実務的な講義も行った。学生達が調べてきた決算書分析の結果を一人一人報告の機会を与え、議論した。すべての学生にわかるようにわかりやすい授業を心がけた。良い評価を得た。		
	税務会計論では、租税の基本的な概念と法人税法の計算の仕方、所得税法の計算の仕方について指導をおこなった。基本的な会計の知識が身についていないとついてこれないため、中には授業の内容を理解しきれない学生がいた。		
	演習では、各人が1本の論文を作成することを目標にゼミの講義を進めた。簿記の検定試験受験希望者には、受験指導も行った。		
	社会科学演習では、各人が1本の論文を作成することを目標にゼミの講義を進めた。簿記の検定試験受験希望者には、受験指導も行った。		
	上級簿記では、日商簿記検定2級の商業簿記の指導を行った。受講生は集中して勉強していた。		
Ⅲ 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本会計研究学会、税務会計研究学会、会計理論学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	オープンカレッジ「身近な企業の決算書を読んでみよう」2015年10月		
学外審議会委員等	日本科学者会議 三重支部 幹事 2013年5月～2015年5月		
学外講演会講師等	三重県公益認定等審議会委員2012年7月～、松阪市行財政改革推進委員会委員2015年12月～		
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
制度（会計、法人税、監査）の社会的意味を考察し、その制度下での社会的実態を明らかにします。			
（ 研究テーマの応用例：資本金規模別の企業の実質税負担率の算定分析、所得概念と課税所得の計算方法、会計制度の歴史的な考察、資本金規模別の企業の内部留保率の算定分析、法人税制と内部留保率の関係分析、不公正ファイナンスが行われている企業の事例分析 ）			

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

生活科学科

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：学長・教授	氏名：東福寺一郎
Ⅰ 研究活動			
1 研究課題：男女共同参画とジェンダーの心理学、加齢に伴う記憶の変化、生涯学習			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会報告			
共同研究			
助成研究			
Ⅱ 教育活動			
1 担当科目：「発達と学習」（共通・教職、昼、後期、2）、「心理学概論」（生活、昼、前期、2）、「心理学基礎実験」（生活、昼、前期、2）、「福祉心理基礎基礎演習」（生活、昼、後期、2）、「福祉心理演習」（生活、昼、通年、4）、「教育実習Ⅰ・Ⅱ、事前・事後の指導」（法1・生活、昼、通年、5）、「栄養教育実習、事前事後の指導」（食栄、昼、通年、2）、「教育実践演習」（法1・生、昼、後期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	硬式テニス部顧問		
学内教育活動	「福祉心理演習」において、毎年、フレンデみえにおいてウェルカムセミナーを利用し、男女共同参画について学習している。		
（その他）	「福祉心理演習」では、卒業論文を作成し、USBメモリ及びCD/DVDに焼き付けて保存している。		
	オフィスアワーを設定し、学生からの相談を受けている。オフィスアワー以外でも特段の事情がない限り対応している。		
	2012年10月より、学生へのメッセージとして学長室だよりを毎月執筆し、ホームページにアップしている。		
教育上の工夫	講義科目においては、パワーポイントやDVDを積極的に使用するとともに、簡単な実験やテストを取り入れて興味を持てるような工夫をしている。また、発達と学習では聴講券の裏面にコメントや感想を書くことを許し、書かれた内容については次回の講義時の配布プリントでフィードバックしている。また、実験では毎回実験レポートを提出させ、コメントをつけて返却している。		
Ⅲ 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本心理学会、日本教育心理学会、日本認知心理学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	三重県立名張高等学校定時制にて出前講座講師「男女共存社会のすすめ」、連合三重津地域協議会にて出前講座講師「心理学ミニ実験」		
学外審議会委員等	三重県社会教育委員（座長）、津市男女共同参画審議会委員（会長）、桑名市男女共同参画審議会委員（会長）、いなべ市男女共同参画推進委員会委員（会長）、亀山市男女共同参画審議会委員（副会長）、津市国際交流協会津市部理事、内閣府男女共同参画推進連携会議委員、日本高等教育評価機構短期大学判定委員会委員、第76回国民体育大会三重県準備委員会委員		
学外講演会講師等	全国公立短期大学協会事務職員中央研修会講師「男女共同参画について考える」		
その他の社会活動	全国公立短期大学協会理事・会長、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会顧問会議顧問		
他大学非常勤講師	放送大学三重学習センター（面接授業担当）		
3 一言アピール			
近年は男女共同参画やジェンダーを中心とした研究ならびに社会活動を続けています。学長であるため、研究活動に割く時間は限定されますが、他の2つのテーマを含め、心理学の視点から少しずつでも成果を残していきたいと考えています。			
（ 研究テーマの応用例：短大生の男女共同参画意識、メタ記憶の変化についての質問紙調査、三重県各地における生涯学習推進状況調査 ）			

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：准教授	氏名：小野寺 一成
Ⅰ 研究活動			
1 研究課題：行政計画体系における広域都市計画、都市農村計画の意義、人口減少期の都市計画のあり方、住民参加と都市計画理論の共存、住民参加型計画の効果			
2 研究活動実績			
著書			
論文	地方都市における市町村合併に伴う都市計画区域の拡大再編に関する研究 三重短期大学紀要 第64号 pp.7～12 平成28年3月 上野宿の歴史的空間構成に関する研究 小河佑喜、小野寺一成 三重短期大学紀要 第64号 pp.1～6 平成28年3月		
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
Ⅱ 教育活動			
1 担当科目：「まちづくり設計Ⅰ」（生活、昼、前期、1）、「住環境計画」（生活、昼、前期、2）、「地域政策論」（食・生活・法Ⅰ、昼、前期、2）、「地域政策論」（法Ⅱ、夜、前期、2）、「まちづくり設計Ⅱ」（生活、昼、後期、1）、「地域環境学」（生活、昼、後期、2）、「都市計画論」（生活、法Ⅰ、昼、後期、2）、「居住環境特別演習」（生活科学科：通年）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	都市計画ゼミにて、日本最古の木造天守閣と歴史的街並みが残る城下町である、犬山市の犬山城と城下町の視察		
学内教育活動 (その他)	生活科学1年次クラス担任、オフィスアワー 前期：金曜日12：30～14:00、後期：水曜日12：30～14：00、「居住環境特別演習」のゼミ生における卒業研究の指導及び「2015年度都市計画ゼミ卒業研究（論文・設計）集」の作成・編集		
教育上の工夫	第1部前期「まちづくり設計」 「総合評価」は5.04であり、昨年度の総合評価5.05とほぼ同等であった。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「レポート等の返却」の評価項目が5.41と高い。設計を指導する授業のため、エスキースを行ないながら進めたことや講評会を行いながら進めたことから評価が高いと思われる。次いで「教員の熱意」5.14や「教材」5.00の評価項目が高くなっている。項目別にみると昨年度よりやや下がっているが、今年度の受講生が32名と多くなり、一人当たりにかける時間が減ったことも原因と考えられる。学生一人ひとりと接する機会を増やし、個別的な指導を心掛けていきたい。また、当授業は1単位1時限であることから、時間コマ数を増やす等も今後の対応として検討したい。		
	第1部前期「住環境計画」 「総合評価」は4.95であり、昨年度の総合評価4.57より高くなっている。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「教員の熱意」の評価項目が5.04（昨年度4.93）と高い。次いで「教材」が4.95（昨年度4.31）、「板書・話し方」4.84（昨年度4.48）、「わかりやすさ」4.82（昨年度4.43）と続いている。項目別にみると全ての評価項目で昨年度を上回っており、講義に関しては2年目を迎えて少し慣れてきたかもしれない。パワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れて興味を持てるような工夫をしている。来年度以降も改善しながら進めていきたい。		
	第1部前期「地域政策論」 今年から担当した講義のため昨年度との比較はできないが、「総合評価」は5.30であった。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「教員の熱意」の評価項目が5.55と高い。次いで、「板書・話し方」と「教材」の評価項目が共に5.42、「良好な学習環境」が5.24、「わかりやすさ」が5.21と高くなっている。一方、「学生の興味を引く工夫」の評価が5.06と低い。I部の地域政策論の評価と比べると相対的に低いこと、中間及び定期試験結果などから想像すると、少し難しく感じているためと考えられる。授業を解り易く伝える工夫が必要かもしれない。しかしながら、この時間当講義以外の授業が開講されていないことから受講している学生も多い。来年度以降、同時に開講している平行授業があるような時間割を検討したい。		
	第2部前期「地域政策論」 今年から担当した講義のため昨年度との比較はできないが、「総合評価」は5.02であった。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「良好な学習環境」の評価項目が5.25高い。次いで、「教材」5.08、「わかりやすさ」4.96、「学生の質問や意見」4.94、「板書・話し方」と「教員の熱意」が共に4.92となっている。一方、「学生の興味を引く工夫」の評価が4.69と低い。I部の地域政策論の評価と比べると相対的に低いこと、中間及び定期試験結果などから想像すると、少し難しく感じているためと考えられる。授業を解り易く伝える工夫が必要かもしれない。しかしながら、この時間当講義以外の授業が開講されていないことから受講している学生も多い。来年度以降、同時に開講している平行授業があるような時間割を検討したい。		
	第1部後期「まちづくり設計Ⅱ」 全体的に評価が高くなっており全ての項目において5.2を超え「総合評価」は5.53であったが、昨年度の総合評価5.70より少し低くなっている。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「レポート等の返却」の評価項目が5.84と高く、設計を指導する授業のため、エスキースを行ないながら進めたこと、中間提出や最終提出の講評会を行ったことから評価が高いと考えられる。次いで「知的刺激」が5.58、「板書」と「教員の熱意」が5.53と評価項目が高くなっている。「良好な学習環境の評価」が5.21と若干低いのは、グループ作業による設計を行っており、グループ内で活発な議論が行われたことから、他グループの声等が聞こえるためと思われる。昨年度より評価が低いのは今年度の受講生が24名と若干多くなり、一人当たりにかける時間が減ったことも原因と考えられる。学生一人ひとりと接する機会を増やし、個別的な指導を心掛けていきたい。		

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

	第1部後期「地域環境学」 「総合評価」は4.86であり、昨年度の総合評価5.10より若干低くなっている。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「レポート等の返却」の評価項目が5.49（昨年度5.78）と高い。これは中間試験の採点を返却したことと思われる。次いで、「教材」の評価項目が5.20（昨年度5.14）、「教員の熱意」が5.02（昨年度5.24）と高い。一方、「学生の興味を引く工夫」の評価が4.53（昨年度4.74）と低い。昨年度は50名程度の授業を映像設備の関係から大教室で行っていたが教室に空席が目立ち授業に集中しづらくなっていると感じたことから、今年度は小教室で授業を行ってみたが評価が低くなった。今年度は60名以上の受講者がおり、小教室では窮屈間があるほか、特に他コースの受講者から、「居住環境コースの授業のためちょっと難しい。」等のコメントがあった。パワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れて興味を持てるような工夫をしているが今後の課題としたい。
	第1部後期「都市計画論」 「総合評価」は4.98であり、昨年度の総合評価5.07より少し低くなった。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「レポート等の返却」の評価項目が5.56（昨年度5.64）と高い。これは中間試験の採点を返却したことと思われる。次いで、「教員の熱意」の評価項目が5.13（昨年度5.26）、「教材」が5.10（昨年度4.99）と高い。一方、「学生の興味を引く工夫」の評価が4.67（昨年度4.85）と低い。これらは昨年度に比べ、第2部の開講講義では無くなったところから、居住環境コース以外の受講生が多いことも原因と考えられる。学生の興味を引く工夫などは、パワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れて興味を持てるような工夫をしているが今後の課題としたい。
	第1部通年「居住環境特別演習」 都市計画ゼミのねらいは、まちづくり及び都市計画に関するテーマについてグループ等で研究を行い、研究過程で調査、課題抽出、解決方法、考察等の検討、研究報告のとりまとめ、表現の方法等を体系的に学び、最終的にまちづくり及び都市計画について理解を深め考察することを狙いとしている。調査や視察等を通じ机上では得られない社会的な課題を実感し、これに対する自らの考えをまとめ、発表、プレゼンテーションでできることが大切であると考えている。 授業計画としては、まちづくり及び都市計画さらには地域の公共施設等の今日的な課題等を題材に研究テーマを決め、資料調査及び現地調査等に基づく分析による結果を導き、各自の考察を行い、卒業研究論文または卒業研究設計として取りまとめる。前期は輪講を行いながら各自研究テーマを決め、夏休みに調査を行い、後期から卒業研究報告を取りまとめ、卒業研究（卒業論文・卒業設計）発表会にて各自発表を行うとしている。
III 学会等及び社会における主な活動	
1 所属学会：公益社団法人日本都市計画学会、一般社団法人日本建築学会	
2 社会活動実績	
地域連携事業	平成27年度 三重短期大学政策研究・研修座長（2015） 公共施設更新問題に応じた今後の公共施設のあり方及び再配置に関する調査研究
学外審議会委員等	一般社団法人建築学会 都市計画委員会 地方都市再生手法小委員会委員（2015.4～2017.3）、一般社団法人建築学会 東海支部三重支所運営委員（2015.8～2017.7）、一般社団法人建築学会 東海支部 都市計画委員会委員（2016.4～）、一般社団法人建築学会 東海支部 都市計画委員会 まちづくり広場実行部会員（2016.4～）、2015年 三重県事業認定審議会委員（都市計画）（2015～）、2015年 津市建築審査会委員（都市計画）（2014～）、2015年 津市農業振興対策協議会委員長（2014～）、2015年 津市福祉有償運送運営協議会委員長（2014～）
学外講演会講師等	いわき市小名浜港背後地まちづくり活動支援事業小名浜商店会まちづくり勉強会 「地域を支えるまちづくり活動」～住民参加の意義と効果～講演（2016.3.28）
その他の社会活動	
他大学非常勤講師	
3 一言アピール	
広域都市計画、都市農村計画、住民参加のまちづくり、持続可能なコンパクトシティ、都市再生手法、人口減少時代の都市計画など、今後の都市計画の課題に取り組んでいきたいと考えています。 （研究テーマの応用例：広域都市計画の検討、都市農村計画の検討、老朽化した公営住宅団地等の建替え検討、住民参加のまちづくり）	

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：教授	氏名：南有哲
I 研究活動			
1 研究課題：「人間中心主義批判」の批判的検討			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他	ルタナティブの象徴としての「里山」、恭順の記号としての「資本主義」——『里山資本主義』を読む 唯物論研究年誌 第20号 201-212頁 いわゆる「声掛け実験」についての若干の考察 地研年報 20号 111-121頁		
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：環境論（共通、昼、前期、2）、環境論（共通、夜、前期、2）、生活経営（食栄・生活、昼、前期、2）、環境政策論（法Ⅰ・生活、昼、後期、2）、環境政策論（法Ⅱ、夜、後期、2）、環境倫理学（生活、昼、後期、2）、環境共生論（生活、昼、前期、2）、居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	eco検定対策講座		
学内教育活動 （その他）	一年次クラス担任		
教育上の工夫	視聴覚教材の積極活用		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：唯物論研究協会、日本科学史学会、科学基礎論学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	唯物論研究協会編集委員、津市環境基本計画推進市民委員会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
特になし			
（研究テーマの応用例：外来生物問題の環境倫理）			

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：教授	氏名：長友薫輝
I 研究活動			
1 研究課題：社会福祉および社会保障制度・政策研究、地域福祉・地域医療研究、社会福祉援助技術論研究			
2 研究活動実績			
著書	『市町村から国保は消えない』自治体研究社、2015年4月		
論文	「国保の都道府県単位化と財政分析」『住民と自治』2015年6月		
	「医療費抑制と地方統制を強める国保の都道府県単位化」『医療福祉研究』2015年7月		
	「貧困・無保険者へのアプローチ」『国民医療』Np.328、2015年		
	「社会保障の機能と役割」『中小商工業研究』No.123、2015年		
	「社会保障を基盤とした社会づくりへ向けて」『月刊民商』No.57、2015年		
	「国保の都道府県単位化について」『民医連医療』No.521、2016年1月		
	「医療改革の動向～公的医療保険を中心に～」『日本医療経済学会会報』2016年3月		
その他			
学会等報告	「医療改革の動向～公的医療保険を中心に～」第39回日本医療経済学会研究大会、2015年12月		
共同研究	科研費・課題番号25590148 「社会包摂的医療に向けたアクション研究：語りにもとづく実践と政策形成」2013年～2015年度、研究代表者・松田亮三（立命館大学産業社会学部教授）		
助成研究	日本医療総合研究所「インクルーシブ医療部会」2014年度～2016年度		
II 教育活動			
1 担当科目：社会保障論Ⅰ（生活、昼、前期、2）、社会保障論Ⅱ（生活、昼、後期、2）、社会福祉論Ⅰ（生活、昼、前期、2）、社会福祉論（法Ⅰ、昼、前期、2）、地域福祉論Ⅱ（生活、昼、後期、2）、社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3）、社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3）、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（生活、昼、後期、3）、福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2）、福祉心理演習（生活、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	1年生クラス担任（前期）、オフィスアワー（火曜日3限）、学外演習（自治体、福祉施設等の現場での演習）、卒論作成指導		
教育上の工夫	担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：社会政策学会、日本医療経済学会、日本社会医学会、日本社会福祉士会、三重県社会福祉士会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	地域連携講座「3,11大震災から読み解く公務労働と自治体の力」2015年7月		
学外審議会委員等	津市介護保険事業等検討委員会委員、津市地域自立支援協議会会長松阪市地域包括ケア推進会議会長、松阪市福祉有償運送運営協議会会長、多気郡福祉有償運送運営協議会会長、三重県障害者自立支援協議会会長、三重県社会福祉審議会委員、津市社会福祉協議会理事、津市NPOサポートセンター理事、日本医療総合研究所理事、日本医療経済学会副会長、自治体問題研究所理事、総合社会福祉研究所紀要編集委員		
学外講演会講師等	社会福祉・社会保障、地域医療、国民健康保険、地域づくり等に関するテーマで年間30回程度引き受けている。		
その他の社会活動	医療、介護、社会福祉に関するマスコミへの取材協力、寄稿		
他大学非常勤講師	名城大学経済学部、経営学部「地域福祉論」、皇学館大学現代日本社会学部「社会保障論」、大谷大学文学部「社会福祉調査論」、立命館大学経済学部「医療経済論」		
3 一言アピール			
地域を元気にする調査・研究を地域づくりに関わる人々と行っています。			
（研究テーマの応用例：地域医療、地域福祉に関する計画づくり、地域住民の意向調査、医療法人・社会福祉法人職員研修）			

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：教授	氏名：木下誠一
I 研究活動			
1 研究課題：住宅・施設における生活空間の計画			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他	『東海とおきガイド』、建築ジャーナル、「ARCHITECT」		
	『特集 祭りと町並み』、日本建築家協会三重地域会、「アーキテクトみえ」		
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：居住計画論（生活・昼・前期・2）、居住福祉論（生活・昼・後期・2）、住生活論（生活・昼・後期・2）、住生活設計1（生活・昼・後期・2）、住生活設計2（生活・昼・前期・2）、居住環境特別演習（生活・昼・通年・4）、生活科学概論（基礎・昼・前期・2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	クラス担任、オフィシアワール		
教育上の工夫	講義形式の授業では、基本的にパワーポイントやビデオを使用して、視覚的にわかりやすい講義を心掛けている。また、学生の資格取得への関心と意欲を高めるため、資格試験の内容を演習問題などに一部取り入れている教科もある。 設計等の実習授業では、学生の理解度や作業の進捗度において個人差が大きいため、学生一人ひとりと接する機会を増やし、個別的な指導を心掛けている。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本建築学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	三重短期大学政策研究・研修、「公共施設更新問題に応じた今後の公共施設のあり方及び再配置に関する調査研究」		
学外審議会委員等	日本建築学会東海支部三重支所運営委員、三重県開発審査会委員、三重県公共事業評価審査委員会委員、老人保健福祉施設整備事業事前審査会、鈴鹿市景観審議会専門部会員ならびに審査部会員、松阪市景観アドバイザー、鳥羽市都市計画審議会委員、津市産業・スポーツセンター指定管理者選定委員会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
子どもから高齢者まで快適に暮らせる生活空間の質向上を目指した提案を行っていきたいと思っています。 (研究テーマの応用例：住宅や各種施設の計画・設計)			

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：准教授	氏名：武田誠一
Ⅰ 研究活動			
1 研究課題：在宅生活を支援する地域包括ケアの研究、介護支援専門員のケアマネジメント過程の研究			
2 研究活動実績			
著書	『わたしたちの暮らしとソーシャルワークⅡ－相談援助の理論と方法－』『2章2節『できること』に注目する－ストレングスマデル－』高井由紀子編著（分担執筆）、保育出版社、2016		
論文	「居宅介護支援事業所における主任介護支援専門員の地域支援の実態－主任介護支援専門員と介護支援専門員の認識－」『最新社会福祉学研究』、11、p p.35-42、2016年3月		
	「主任介護支援専門員に対する居宅介護支援事業所の管理者の意識－テキストマイニングを用いた自由記述の分析から－」『人間福祉学会誌』、15、p p.43-47、2016年3月		
	「地域包括ケアシステム下における主任介護支援専門員の役割」『三重短期大学 生活科学研究会 紀要』、64、p p.13-18、2016年3月		
	「『地域包括ケア病棟』届出医療機関の特徴－全国調査からみる「地域ケア病棟」の分類－」『地研年報』、20、p p.103-110、2015年11月		
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究	地域問題研究所 研究員 テーマ「介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）実施に伴う地域課題の研究」		
Ⅱ 教育活動			
1 担当科目：社会福祉援助技術総論（生活、昼、前期、4）、医療福祉論（生活、昼、前期、2）、社会福祉論Ⅱ（生活、昼、後期、2）、社会福祉援助技術論Ⅰ（生活、昼、後期、4）、福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2）、福祉心理演習（生活、昼、通年、4）、社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3）、社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）			
教育上の工夫	社会福祉援助技術総論 今年度より専修科目として開講し、1年生のみの受講でソーシャルワークを理解できるようにグループワークなどを取り入れた。他方、学生の質問や意見に関しては、授業時間内で十分確保できていなかった点が、結果に反映されていると考える。一言カードの導入などを検討していきたい。		
	医療福祉論 専門的な内容であったが、それが学生の知的刺激に結びついているのであれば、その期待に応えられるように、今後も講義で取り上げる内容を更にブラッシュアップしていきたい。 他方、学生の質問や意見に関しては、授業時間内で十分確保できていなかった点が、結果に反映されていると考える。一言カードの導入などを検討していきたい。		
	社会保障論Ⅱ 今年度のみ担当であったが、当日レポート方式を採用し、事前学習を重視した授業形式で行った。学生コメントでは一方的な講義を要望する意見も散見された。 なお、学生の質問や意見に関しては、授業時間内で十分確保できていなかった点が、結果に反映されていると考える。一言カードの導入などを検討していきたい。		
	社会福祉援助技術論Ⅰ 少人数であるため、グループワークを多用した結果、それらの教材に対しての評価が結果に反映されていると考える。他方、学生の質問や意見に関しては、授業時間内で十分確保できていなかった点が、結果に反映されていると考える。一言カードの導入などを検討していきたい。		
Ⅲ 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本社会福祉学会、日本保健福祉学会、日本保健医療福祉連携教育学会、日本医療・病院管理学会、日本プライマリ・ケア連合学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	第51回地域問題研究交流集会「地域包括ケアのあり方を考える」2015年11月1日開催 運営担当		
学外審議会委員等	社会福祉法人津市社会福祉事業団評議員 2014年6月1日～、津市人権施策審議会委員 2015年1月10日～		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	新潟青陵大学大学院看護学研究科「看護管理学特論Ⅱ」、皇學館大学現代日本社会学部「公的扶助論」、日本こども福祉専門学校通信教育部社会福祉士学科「保健医療サービス」		

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

3 一言アピール

福祉、介護、医療での支援のあり方について、関心を持ち研究しております。
専門職として職場や地域で自己研鑽を目指す方と協働していければと考えております。

（研究テーマの応用例：ケアプラン（居宅介護支援計画）の検討・学習会、地域包括ケアのための社会資源開発の研究、地域医療連携における福祉専門職の役割に関する研究）

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：准教授	氏名：笠浩一朗
I 研究活動			
1 研究課題：自然言語処理、コーパス言語学			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他	笠浩一朗、松原茂樹 「主成分分析を用いた同時通訳者のタイプ分類」 日本通訳翻訳学会第16回年次大会		
学会等報告			
共同研究 助成研究	科研費 若手研究（B）「多角的な観点に基づく同時通訳者の通訳プロセスの定量的な分析」（代表者）（課題番号 25770146） 科研費 基盤研究（B）通訳方略の体系化と文構造の逐次解析に基づく講演音声の同時通訳（分担者）		
II 教育活動			
1 担当科目 情報処理実習Ⅰ（食栄・生活・法Ⅰ、昼3クラス、前期・後期、1）、情報処理実習Ⅰ（法Ⅱ、夜1クラス、前期、1）、情報と社会（食栄・生活・法Ⅰ、昼1クラス、前期、2）、情報と社会（法Ⅱ、夜1クラス、後期、2）、情報と科学（食栄・生活・法Ⅰ、昼、後期、2）、居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動（その他）	クラス担任（居住環境コース）、4年制への編入を目指す学生への数学、物理等の個別指導。		
教育上の工夫	学生間において知識、及び、理解力に差があり、すべての学生に対して適した講義内容、講義レベルを合わせることは困難なので、講義内では比較的理解しやすい内容を説明し、より深い内容を知りたい学生、及び、講義内で理解できなかった学生に対しては講義時間外の個別指導で対応するようにした。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：電子情報通信学会、言語処理学会、情報処理学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
特になし			
（・言語処理技術を利用した言語データの統計的分析）			

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

所属：1 生活科学科生活科学専攻		職名：准教授	氏名：北村香織
I 研究活動			
1 研究課題：障害を持つ人に対する地域生活支援、社会福祉政策史（医療政策史含む）			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「ユニバーサルデザインのまちづくりと公共交通 一津市の現状と課題」『地研年報 第20号』pp.61-70、2015年11月		
その他	「『東京滝野川区健康調査』（1938）から考える『貧困』のてがかり」『地研通信 120号』、2016年2月		
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：障害者福祉論（生活、昼、前期、2）、社会福祉発達史（生活、昼、前期、2）、社会福祉援助技術現場実習（生活、昼、前期、3）、福祉心理演習（生活、昼、後期、2）、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（SS、昼、後期、3）、社会福祉援助技術演習Ⅰ（SS、昼、後期、4）、社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（SS、昼、後期、3）、演習（生活、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動（その他）	1 年生クラス担任（前期）、オフィスアワー（火曜日：4 限）、卒論作成指導、学外演習 大阪市西成区 釜ヶ崎へのフィールドワーク 2015年6月		
教育上の工夫	映像や資料を積極的に利用し、社会福祉に関わる問題について具体的なイメージをもちながら、概念を理解してもらえるように努めています。また、講義の流れを予め学生に周知することで、講義に集中できるように工夫をしています。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本社会福祉学会、障害学会、日本社会福祉士会、京都社会福祉士会、医学史研究会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	三重短期大学オープンカレッジ 第一講座 「ユニバーサルデザインのまちづくりとは」2015年11月7日 特別支援研修会—知的障がいのある子どもへの支援— 「障害者差別解消法について考える」2016年1月20日（於：稲葉特別支援学校）		
学外審議会委員等	津市地域公共交通活性化協議会委員、津市の公共交通を考える市民研究会 代表、三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進協議会委員		
学外講演会講師等	障害者差別解消法の施行にあたっての園・学校教職員及び教育委員会事務局職員に向けた研修会 「障害者差別解消法と合理的配慮」 2016年2月16日、2月18日、2月22日、2月26日 （主催：津市教育委員会） 津市の公共交通を考える市民研究会第2回研究会 住民と自治体が作る地域公共交通 課題提起「ユニバーサルデザインのまちづくりと公共交通」 2016年2月28日 於：サンワーク津		
その他の社会活動	地域問題研究所研究員		
他大学非常勤講師	放送大学面接授業「歴史から考える社会福祉」2015年12月12日、13日		
3 一言アピール			
障害を持つ人、特に知的障害や発達障害を持つ人が地域で生活するためにはどのような施策が必要なのか、どのようにすれば実現可能であるのかを追求しています。近年は三重県や津市が多様な人々にとって住みよい街になるためには、公共交通政策やまちづくり政策はどのように進めて行く必要があるのかについて研究活動を行っています。			
（研究テーマの応用例：三重県におけるユニバーサルデザインのまちづくり、三重県の社会事業史）			

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：准教授	氏名：清道亜都子（休職中）
I 研究活動			
1 研究課題：言語表現活動（特に、書くこと）を教育実践に活用する方法の探究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究	「保育士養成課程における実習日誌記述指導プログラムの開発研究」科研費（基盤研究C）課題番号25381284		
II 教育活動			
1 担当科目：後期：教職実践演習（中学校）、後期：教職実践演習（栄養教諭）、後期：人間形成論、後期：道徳教育の研究、後期：教育実習事前・事後指導、後期：福祉心理基礎演習、後期：福祉心理演習			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動（その他）			
教育上の工夫			
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本教育方法学会、日本教育心理学会、日本カリキュラム学会、日本教科教育学会、中部教育学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
日本の初等・中等教育について、理論と実践の両面から研究しています。			
（研究テーマの応用例：言語表現活動によるメタ認知能力の向上、教育実習日誌の記述指導プログラムの開発）			

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：教授	氏名：山田 徳広
I 研究活動			
1 研究課題：プロテアーゼを用いた牛乳と豆乳のゲル化食品に関する研究、食品成分の血糖上昇抑制効果に関する研究、n-3系多価不飽和脂肪酸の栄養に関する研究、津市並びに三重県の食材を用いた加工食品の開発に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	Yamada N,Shibata K,Fuku4 M,K Kiyonori Kuriki, Goto C,Tokudome Y,Miyata M, Maeda K,Hoshino H,Suzuki S,Marumoto M,Ichikawa H, Agawa H,Ishikawa N,Arakawa K,Hosono A,Kobayashi M,Tokudome S, Changes of tryptophan metabolism in Japanese runners during an ultra-marathon race. Sport Sci Health.Vol. 12(1), pp 77-83, 2016		
	関和俊, 高木祐介, 川岸岳人, 笠次良爾, 山田徳広, 日帰り富士山登山がSpO2およびAMSスコアに及ぼす影響 -富士山初登山者を対象として, 登山医学, 35, 2015 (in press)		
	高木祐介, 山田徳広, 関和俊, 夏季の低山登山時におけるクエン酸含スポーツ飲料水の自由摂取が水分摂取量、発汗量および味覚欲求指数の変化に及ぼす影響, 登山医学,35, 2015 (in press)		
	山田徳広, 生姜プロテアーゼによる牛乳ゲルの調整におよぼす牛乳の種類と成分の影響, 日本食生活学会誌, 26 (2), 79-84, 2015		
	山田徳広, 永島伸浩, 志垣 瞳, 稲熊隆博, 生姜汁を用いた牛乳ゲルの形成について, 日本食品保蔵科学会誌, 41 (3), 111-115, 2015		
	Yamada, N., and Shimizu, J. , Effect of Dietary Docosahexaenoic Acid Levels on Respiratory Functions in Heart Mitochondria in Rats. Am J Nutr and Food Sci,2(2), 21-25, 2015		
	山田徳広, 生姜汁による牛乳ゲルの形成に及ぼす牛乳種の影響(第2報), 帝塚山大学現代生活学部紀要, 11, 7-12, 2015		
その他			
学会等報告	山田徳広,生姜中プロテアーゼによる牛乳ゲルの作成について, 食品酵素化学研究会第15回学術集会, 2015年9月, 京都		
	Takagi, .Y, Seki, K., Yamada, N., Kasanami, R.,The effects of intake of the drinking water including citric acid on fluid intake and urinary electrolyte during basketball game in summer.,ACN2015 12th Asian Congress of Nutrition, 2015年5月, 横浜		
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：栄養学（食栄、昼、後期、2）、生化学（食栄、昼、前期、2）、ライフステージ栄養学（食栄、昼、前期、2）、食生活論（食栄、昼、後期、2）、生化学実験（食栄、昼、前期、1）、栄養学実験（食栄、昼、後期、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)			
教育上の工夫	学生のためになる様、より一層精進して行く所存であります。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本栄養食糧学会、日本農芸化学会、日本食品科学工学会、日本食品保蔵科学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	平成27年10月9日相可高等学校 出前授業		
	平成28年2月21日津市ふれあい会館 出前講座		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

3 一言アピール

超高齢社会を迎えた我が国では、高齢者の栄養障害と嚥下障害が問題となっている。たんぱく質分解酵素であるプロテアーゼは、牛乳中または豆乳中のたんぱく質を分解することによってゲルを形成する。このことを利用して高齢者の嗜好に合うと共に、栄養価が高く、嚥下しやすい食品を開発する。

現在、糖尿病の増加が大きな社会問題となっている。食品成分の中には、糖の吸収を抑えたり、インスリンの分泌を促すインクレチンの分泌を促進したり、インクレチンを分解する酵素DPPⅣの作用を阻害することによって血糖の上昇を抑えるものがある。新たな血糖上昇抑制効果を持つ食品成分や食材を探索する。

n-3系多価不飽和脂肪酸は抗肥満作用、血中脂質改善作用、抗動脈硬化作用、抗アレルギー作用など様々な機能が明らかとなっている。近年、n-3系多価不飽和脂肪酸にインスリンの分泌を促すインクレチン分泌促進作用があることが明らかとなった。抗糖尿病作用を中心としてn-3系多価不飽和脂肪酸の栄養を探索する。

津市や三重県には様々な農産物がある。津市や三重県の食材を用いた新たな加工食品を開発して提案する。

（研究テーマの応用例：高齢者用ゲル化食品の開発、血糖値が上がらないスイーツ開発、血糖値が上がりにくい食事方法の提案、津市や三重県の食材を用いた新たな加工食品の開発）

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：教授	氏名：伊藤 貴美子
I 研究活動			
1 研究課題：食物・栄養とがん予防に関する基礎的研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他	「ワサビはなぜ辛いの?」「ワサビの雑学」「ピーナッツの栄養学」「牛乳の栄養学」「大豆の栄養学」（株）おやつカンパニー社報		
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：食品学（食栄・生活、昼、前期、2）、食品衛生学Ⅰ（食栄、昼、前期、2）、食品学実験（食栄、昼、前期、2）、食品の機能（食栄、昼、後期、2）、食品衛生学Ⅱ（食栄、昼、後期、2）、食品衛生学実験（食栄、昼、後期、2）、前後期：特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	バスケットボール部顧問		
学内教育活動（その他）	食栄1年次生クラス担任、食栄2年次生クラス担任		
教育上の工夫	食品学：受講生の多くが高校までの教育課程で化学の基礎知識を修得していないことから、講義内容を基本的な項目に抑え授業レベルに配慮している。要点を整理し、重要事項についてはわかりやすく簡潔に説明することを心がけた。また、分子の構造がよりよく理解できるよう分子構造模型を用いて説明した。その他、復習を習慣づけるため各章ごとに小テストを行ったり、毎回聴講券の裏に質問や感想を書かせて学生とのコミュニケーションがとれるよう努めた。		
	食品衛生学Ⅰ：本講義では、微生物一般に関する基本的事項を学び、さらに主な微生物性食中毒について、予防に必要な基礎知識と応用力を習得する。断片的な知識の暗記に終わるのではなく、微生物が保つる食の安全性についてさまざまな角度から考察し理解を深め、体系的な知識と考え方が身につくよう努めた。そのためプリントやパワーポイントなどで多くの参考資料も提供した。また、毎回聴講券の裏に質問や感想を書かせ、学生とのコミュニケーションがとれるよう努めた。		
	食品学実験：多くの学生がこれまでに化学実験の基礎知識や技術、レポートの書き方などを学ぶ機会をもっていないため、基礎的事項を何度も繰り返し説明したり、実験項目ごとに「提出用レポート用紙」を配布してレポートの書き方を修得できるよう工夫した。また予習課題や設問を設け、学生が実験を通して食品に対する理解を深めることができるよう努めている。		
	食品の機能：「健康に良い」とされる食品成分について、その生体影響のメカニズムや安全性をわかりやすく簡潔に説明することを心がけた。また、パワーポイントや問題解決型の授業形式を取り入れることにより、学生が自主的に興味を持って学べるよう努力した。毎回聴講券の裏に質問や感想を書かせて学生とのコミュニケーションがとれるよう努めた。		
	食品衛生学Ⅱ：食の安全性について、最近の話題も含め、体系的な知識と考え方が身につくよう努めた。そのためプリントやパワーポイントなどで多くの参考資料も提供した。期末試験のほかに、受講者の理解度を確認するため中間試験を実施した。毎回聴講券の裏に質問や感想を書かせて学生とのコミュニケーションがとれるよう努めた。		
	食品衛生学実験：実験項目ごとに「提出用レポート用紙」を配布してレポートの書き方を修得できるよう工夫した。また予習課題や設問を設け、学生が実験を通して食品の安全性に対する理解を深めることができるよう努めている。		
	特別演習：演習課題は「がん予防効果を有する食物因子の検索」。野菜や果物の摂取はがんに対して予防効果があると示されている。しかしながら、その活性成分やがん抑制作用の機序は解明されていない。本演習では、種々の食物由来成分についてがん細胞に対する活性評価を行っている。食生活とがんの関係について知識を深めると共に、実験技法や得られた結果のまとめ方などが修得できるよう努めている。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本癌学会、日本薬学会、日本栄養・食糧学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	出前講座、津市ふれあい会館 2015年5月13日 三重短期大学オープンカレッジ講師 2015年8月1日		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
食と健康との関係について関心が高まるなか、「健康にいい」食品（サプリメント）がメディアを介して次々と紹介されていますが、その多くは科学的根拠に乏しく、安全性の検討も十分ではありません。「健康にいい」とされる食品成分の生体影響を分子、細胞、個体レベルで検討し、そのメカニズムを明らかにすることにより、真に有効かつ安全な「食による疾病予防法」を提案したいと思っています。			
（研究テーマの応用例：がん予防効果を有する安全な食物因子の検索、食物因子による発がん機構の解析）			

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

所属：1 生活科学科生活科学専攻		職名：准教授	氏名：阿部 稚里
I 研究活動			
1 研究課題：栄養教育の有効性に関する研究、ビタミンE代謝に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	阿部 稚里, 岡田 共代, 橋本 卓也, 池田 彩子. (2016). フルタイム就労の保護者は集団保育施設の食育に対する期待が高い日本家政学会誌 67: 28-36		
その他	平成27年度 三重県スーパー食育スクール事業報告書		
学会等報告			
共同研究	一般社団法人日本調理科学会 特別研究 『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』三重県研究調査		
助成研究	家庭内環境を考慮した女性3世代の食習慣と健康状態に関する栄養疫学的横断研究		
	ビタミンE代謝に関する研究		
	文部科学省科学研究費補助金 若手研究 (B) 課題番号26870801「食事バランスガイドと簡易型自記式食事履歴質問票を用いた食教育の注意点の把握」2014-2017年度		
	社団法人 米穀安定供給確保支援機構「平成27年度女子大学生等を学習者とした“3・1・2弁当箱法”体験セミナー事業助成」2015年度		
II 教育活動			
1 担当科目：栄養教育論Ⅰ（食栄、昼、前期、2）、栄養教育論実習Ⅰ（食栄、昼、前期、1）、校外実習事前事後指導（食栄、昼、通年、1）、栄養教育実習事前事後の指導（食栄、昼、通年、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）、教職実践演習（食栄、後期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)			
教育上の工夫	担当する講義や実習は、栄養士免許必須科目や教職免許必修科目であり、学生は学ぶ意欲が強い。そこでできるだけ双方向の内容になるように、質問や感想を口頭やレポートで提出してもらっている。総じて授業内容を自分自身で振り返ることができていたようである。一方で、栄養士や教職は大変で難しいという印象をもった学生もいるようである。栄養士や栄養教諭は専門職種であり、責任も重いがやりがいもある職なので、より一層興味を持てるような講義や実習をしていきたい。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本家政学会、日本栄養・食糧学会、日本調理科学会、日本農芸化学会、ビタミンE研究会、ゴマ科学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	「野菜をしっかりと食べて健康に！」（講演）,オープンカレッジ,津市市民,2015年7月		
学外審議会委員等	日本栄養・食糧学会中部支部参与、平成27年度 三重県スーパー食育スクール事業推進員		
学外講演会講師等	「野菜を摂るような食生活を目指そう」（講演）,三重県立久居農林高等学校,食生活コース2年生,2015年12月		
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
栄養教育とは、対象とする個人や集団のQuality of Life (QOL) を高めるために、教育手段を用いて好ましい食行動の実践と習慣化を促すために、具体的に働きかけることです。そこで、食行動のよりよい変容を促すために、有効な栄養教育法について検討しています。また、必須栄養素であるビタミンEは、1920年代に発見されたのにもかかわらず、その主な代謝産物が報告されたのは、1990年代後半と比較的最近です。その同族体の体内動態については未だ不明な点も多いため、ビタミンE代謝の詳細な解明を目的として研究を行っています。 （研究テーマの応用例：栄養教育の実施と評価、ゴマやサプリメント摂取時のビタミンE濃度測定）			

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：准教授	氏名：駒田 亜衣
Ⅰ 研究活動			
1 研究課題：特定健診・特定保健指導の評価に関する研究、県民健康・栄養調査の評価に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「こんにやく商品のレシピ開発～一身田印ブランドの新商品～」木村衣里、島津良汰、武田春奈、藤木なぎさ、向奈々江、弓削琴音、駒田亜衣、三重短期大学生生活科学研究会紀要, No.64, pp25-29(2016.3)		
	「蓮をイメージしたお菓子の開発～一身田印ブランドの新商品～」池田紗南、岩谷優希、下田彩夏、中村真由香、村田英里紗、駒田亜衣、三重短期大学生生活科学研究会紀要, No.64, pp31-35(2016.3)		
	「エディブルフラワーレシピ開発」渡邊優希、久保綾奈、猪森未彩樹、松原菜美、野末拓志、駒田亜衣、三重短期大学生生活科学研究会紀要, No.64, pp37-41(2016.3)		
その他			
学会等報告	木下なつこ、中井晴美、駒田亜衣、特定保健指導実施による翌年の特定健診受診率向上について、第68回三重県公衆衛生学会、2016.1(津市)		
共同研究	(テーマ:特定健康診査・特定保健指導の解析) 駒田亜衣（研究代表者）、中井晴美、木下なつこ、山中瞳、山田真司		
助成研究	2015年度地域問題研究所研究員「「生活習慣改善への行動変容と特定保健指導のポイントに関する研究」」		
Ⅱ 教育活動			
1 担当科目：調理学（食栄、昼、前期、2）、調理学実習Ⅱ（食栄、昼、後期、1）、給食計画実務論（食栄、昼、後期、2）、校外実習事前事後指導（食栄、昼、通年、1）、給食計画実務論実習Ⅰ（食栄、昼、前期、1）、給食計画実務論実習Ⅱ（食栄、昼、通年、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	茶道部顧問		
学内教育活動（その他）	クラス担任（食栄1年生、食栄2年生）、卒論作成指導（食栄2年生）、食栄学生就職指導（食栄2年生）、食栄学生編入学指導（食栄2年生）		
教育上の工夫	講義では板書だけでなく、スライドを活用している。「調理学」において、食品や食材の種類などを写真を示して説明することで、発注や栄養価計算時にどの種類を選択すればよいか判断しやすくなる。「給食計画実務論」では厨房の作業風景や、前年に実施した給食献立の配膳写真などを提示している。また、調理器具についても器具の写真だけでなく、使用方法や実際に使用している状況なども写真で示し、理解が深まるよう努めている。		
	調理学の講義では、非常勤講師が担当する「調理学実習」との連携を密にとるようにしている。実習で説明しきれなかった事項や、失敗事例なども把握しておき、講義で補足説明するように努めている。また、栄養価計算の課題は実習で調理した献立を使用しており、自身で調理したものの栄養価を評価できるため、食材や調味料の重量との関係も把握しやすいのではないかと考えている。		
	調理学実習では、これまでに学んできた調理の技術だけでなく、献立作成の時間も取り入れて実施している。学生の評価はどの項目もおおよそ5点～6点となっており、学生の受講態度も良好であった。その中で「学生の質問や意見が授業に反映されるように工夫がみられた」については比較的点数が低く、反省点の一つである。実習は約50名がグループに分かれて調理する形式であり、目が行き届きにくいグループもあったのかもしれない。反省点や学生からの意見については今後実習への課題として反映させたい。		
	給食計画実務論実習では、栄養士免許取得のための必修科目であるため、食物栄養学専攻の学生のほとんどが履修する科目である。校外実習のための学内実習として位置づけられているため、栄養士を希望する学生は、この実習で大量調理について学び、校外実習に向けて準備することとなる。学生の評価はどの項目も比較的高かったが、なかでも「器具等の整備」「器具の操作手法や安全性の説明」の評価が高かった。この実習では大量調理に特化した機械や器具を使用することから、その意味や使い方を十分に説明したが、それが学生にも伝わっていることが確認できた。引き続き、丁寧な説明と指導を行っていきたい。特に、その後にひかえた校外実習をイメージし、しっかりと準備できるようサポートする。		
Ⅲ 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、日本病態栄養学会、日本公衆衛生学会、日本ヒューマンケア科学学会、日本家政学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	地域連携連携カフェHONOBUNO（給食運営）		
	一身田印認定商品の開発		
	出前講座(津市教育委員会)「三重県の食状況の変化と課題について」		
学外審議会委員等	一身田印認定協議会委員、津市栄養士連絡会委員、津地域栄養管理ネットワーク研究会委員		
学外講演会講師等	津市ヘルスメイトリーダー研修会講師(津市食生活改善推進協議会)「おいしく食べる工夫」		
	津市保育所職員研修会講師(津保育所施設長連絡協議会)「保育所給食献立の大量調理の工夫と衛生管理について」		
	「食とくらしの健康シンポジウム」コーディネーター(三重県生活協同組合連合会)		
その他の社会活動	ベストプラクティスコンテスト&大学・地域連携シンポジウム（学生発表指導と引率）		
他大学非常勤講師	放送大学（平成27年度面接授業講師）		

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

3 一言アピール

食習慣や生活スタイルは土地ごとに特徴があり、それらを客観的に明らかにすることによって、地域に合った健康増進や生活習慣予防の方策が立てられます。有効方策を見出すため、特定健康診査(メタボ健診)や県民健康栄養調査の結果をいろいろな観点から探っています。地域や年代、性別だけでなく、普段の生活習慣によって大きな違いがあることを知っていただき、皆様の健康増進に役立てていただければと思っています。

（ 研究テーマの応用例：有効な特定保健指導に関する研究、栄養摂取量と生活習慣との関連に関する研究）

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻	職名：助手	氏名：中井 晴美
I 研究活動		
1 研究課題：食生活に関する調査研究		
2 研究活動実績		
著書		
論文		
その他		
学会等報告	山田真司、駒田亜衣、中井晴美、飯田津喜美、隠れ肥満・見かけ肥満をもたらす生活習慣について、第74回日本公衆衛生学会、2015.11（長崎市）	
共同研究		
助成研究		
II 教育活動		
1 担当科目：食品学実験助手（食栄、昼、前期、1）、給食計画実務論実習Ⅰ助手（食栄、昼、前期、1）、校外実習事前事後指導助手（食栄、昼、前後期、1）、解剖生理学実験助手（食栄、昼、後期、1）、調理学実習Ⅱ助手（食栄、昼、後期、1）		
2 教育活動実績		
課外活動指導		
学内教育活動（その他）	食栄1・2年次生クラス担任、キャリア支援委員、校外実習巡回指導	
教育上の工夫	非該当	
III 学会等及び社会における主な活動		
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本公衆衛生学会		
2 社会活動実績		
地域連携事業	政策研究・研修 「効果的な特定保健指導の検討」補助 三重大学連携カフェ 補助	
学外審議会委員等	市立伊勢総合病院給食業務受託者選考委員会委員	
学外講演会講師等		
その他の社会活動		
他大学非常勤講師		
3 一言アピール		
特定健康診査結果より生活習慣病発症に関わる因子を分析し、今後の望ましい食生活を実現するために、栄養士として何ができるのか、また何をすべきなのかを学生と一緒に考えていきたいと思います。 （研究テーマの応用例：特定健康診査の地域比較）		

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：助教		氏名：飯田 津喜美	
Ⅰ 研究活動					
1 研究課題：タンパク質の構造・機能に関する研究、食文化に関する研究					
2 研究活動実績					
著書		（共著）続三重の味千彩万彩，第2章三重の農産物【豆類】45，64-65，第7章三重の郷土料理，みえ食文化研究会，2015年6月			
論文		野澤有紀，近藤真利奈，杉谷まち子，若林 幸，飯田津喜美：「ササゲ属マメの栽培・利用状況について」， 三重短期大学生生活科学研究会紀要第64号，19-24（2016）			
その他		小野はるみ，飯田津喜美，若杉悠佑：「弓道選手の食生活調査について」， スポーツ医・科学研究MIE第23巻，23-29（2016）			
学会等報告					
共同研究		リボカリン型プロスタグランジンD合成酵素（L-PGDS）の構造と機能解析			
助成研究		ミトリ豆（ササゲ属マメ）の国内外での利用圏と調理科学的利用法の検討			
		一般社団法人日本調理科学会 特別研究『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』三重県調査研究員			
Ⅱ 教育活動					
1 担当科目：特別演習（食栄，昼，通年，4）、生化学実験（食栄，昼，前期，1）実験助手、調理学実習Ⅰ（食栄，昼，通年，2）実習助手 栄養教育論実習Ⅱ（食栄，昼，後期，1）実習助手、調理学実習Ⅲ（食栄，昼，後期，1）実習助手					
2 教育活動実績					
課外活動指導		バレーボール部副顧問、子ども料理体験教室学生食育サポーター育成・指導			
学内教育活動 （その他）		食栄1年次生クラス担任、食栄2年次生クラス担任、校外実習事前事後及び巡回指導			
教育上の工夫		非該当			
Ⅲ 学会等及び社会における主な活動					
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本生化学会、日本調理科学会、日本蛋白質科学会、日本熱測定学会					
2 社会活動実績					
地域連携事業		出前講義「健康づくりのための家庭料理を学ぼう」， 第12回南ヶ丘寺子屋講座，2016年2月 第15回津市国際交流デー出店，津市国際交流協会主催，津市共催，2015年10月18日			
学外審議会委員等		三重県栄養士会理事、三重県体育協会スポーツ医・科学委員会委員			
学外講演会講師等		スポーツ栄養指導教室講師（分担）， 三重県弓道連盟（三重県立松阪工業高校）， 2015年7月～12月（この間3回実施） 三重県栄養士会平成27年度研究発表会座長（分担）， 三重県栄養士会，2016年3月			
その他の社会活動		三重県学生バレーボール連盟監事			
他大学非常勤講師					
3 一言アピール					
タンパク質は、その構造や機能を調べるにより様々な性質を知ることができます。現在、大阪府立大学との共同研究において、生体内輸送蛋白質であるリボカリン型プロスタグランジンD合成酵素（L-PGDS）を用いた新規ドラック・デリバリー・システム（DDS）の開発を目指し、本蛋白質の熱安定性と機能性について調査しています。 また、三重県の伝統食材（白ミトリ豆他）を調査し、調理科学的分析を行いながら有効利用法を研究しています。あわせて将来に残したい家庭料理・行事食としての継承活動も行っています。					
（ 研究テーマの応用例：三重県内伝統食材の発掘・伝承調査研究、食生活改善普及事業の実施と評価 ）					

三重短期大学教員研究・教育業績（2015年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：助教	氏名：米田 武志
I 研究活動			
1 研究課題：食嗜好に関する研究、食品成分に関する研究			
2 研究活動実績			
著書	栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅱ（羊土社）		
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究	科研費 若手（B）動物の嗜好形成を促進する食品因子に関する研究		
II 教育活動			
1 担当科目：栄養学実験（食栄、昼、後期、1）、食品衛生学実験（食栄、昼、後期、1）、生化学実験（食栄、昼、前、1）、食品学実験（食栄、昼、前期、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動（その他）			
教育上の工夫	非該当		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本栄養食糧学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	出前授業「おいしさの科学」青山高校		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等	講演「おいしさの科学・食べ方の科学」日本病院調理師協会 東海北陸地区大会		
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	健康食品学（畿央大学）		
3 一言アピール			
生活を楽しくするための”食”を開発する。「おいしいものをおいしく食べて毎日楽しく生きる」を目標として、教育研究活動を行っています。 （研究テーマの応用例：油脂代用材料およびそれを用いた飲食品の提供）			